授業科目	疫学 Epidemiology	担当教員	濱岡　直裕、福士　勝
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業目的	疫学は、人間集団における疾病および健康現象の発生状況を把握し、それらに影響を及ぼしている要因や条件を総括的に探る学問である。この基本的考え方や方法を理解し、健康問題について論理的な思考で原因を追究する手法を身につけ、疫学の考え方が保健対策や公衆衛生看護活動の基礎となっていることを理解する。		
到達目標	1. 疫学の概念・考え方、および疫学における各種の指標について理解する。 2. 疫学の研究方法について、特徴と意義、および各方法の差異を理解する。 3. スクリーニングについて、特性と意義を理解する。 4. 保健対策・公衆衛生看護活動において疫学の考え方が実践されていることを理解する。		
テキスト	大木秀一著「基本からわかる看護疫学入門（第 3 版）」（医歯薬出版）		
参考書	適宜紹介する		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70%	定期試験、小テスト、授業中の取り組み姿勢（集中度、積極性、出席状況、授業への参加状況、態度）などにより目標の到達状況を評価する。
	レポート		
	小テスト	20%	
	提出物		
	その他	10%	

履修上の留意事項	・授業に集中し、復習により知識を身につけ、問題演習を通じて知識をアウトプットする能力を養うこと。 ・配付資料のみでなく、テキストを 3 回読み込んで、体系的に復習を行うこと。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（濱岡）	学習の主題	疫学の考え方
		授業内容	・疫学の概念を理解する。 ・疫学における「因果関係」とは何かを理解する。
		事前・事後学習	テキストの目次を読み、事前に科目の全体像を把握しておく。 配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	2（濱岡）	学習の主題	疫学で用いられる指標（1）
		授業内容	・頻度の測定と、頻度の比較の違いを理解する。 比、率、割合。有病率と罹患率と累積罹患割合。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	3（濱岡）	学習の主題	疫学で用いられる指標（2）
		授業内容	・頻度の測定と、頻度の比較の違いを理解する。 相対危険と寄与危険。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	4（濱岡）	学習の主題	疫学で用いられる指標（3）
		授業内容	・頻度の測定と、頻度の比較の違いを理解する。 死亡率、年齢調整死亡率、致命率。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	5（濱岡）	学習の主題	疫学指標について小まとめ
		授業内容	・小まとめ ・問題演習
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	6（濱岡）	学習の主題	確認テスト
		授業内容	・小テスト ・解答解説を通じて理解を深める。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	7（濱岡）	学習の主題	記述疫学、分析疫学（1）
		授業内容	・記述疫学の目的と特色を理解する。 ・生態学的研究、横断研究の目的と特色を理解する。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	8（濱岡）	学習の主題	分析疫学（2）、介入研究
		授業内容	・コホート研究、症例対照研究の目的と特色を理解する。 ・介入研究の目的と特色を理解する。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	9（濱岡）	学習の主題	真実と誤差、バイアス、交絡
		授業内容	・調査研究の結果に含まれる真実と誤差について理解する。 ・バイアス、交絡因子について理解する。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	10（濱岡）	学習の主題	研究方法の利点と欠点
		授業内容	・信頼性と妥当性について理解する。 ・エビデンス水準と、EBM・EBN について理解する。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	11（濱岡）	学習の主題	疫学研究方法について小まとめ・確認テスト
		授業内容	・問題演習 ・小テスト ・解答解説を通じて理解を深める。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	12（福士）	学習の主題	スクリーニングの概要
		授業内容	・スクリーニングの意義・方法を理解する。 ・スクリーニングの実施上の原則、感度と特異度を理解する。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	13（福士）	学習の主題	スクリーニングの実際
		授業内容	・スクリーニングの実際を理解する。 ・マススクリーニング試験の現状と課題を理解する。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	14（濱岡）	学習の主題	スクリーニングについて小まとめ・確認テスト
		授業内容	・問題演習 ・小テスト ・解答解説を通じて理解を深める。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	15（濱岡）	学習の主題	総まとめ
		授業内容	・実際の研究例から、疫学研究の意義を理解する。 ・問題演習
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。

授業科目	保健医療福祉行政論Ⅰ Health & Welfare Administration	担当教員	小川　克子、近藤　明代、槌本　浩司
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	保健医療業務は人間の生命や健康に直接関係するため、業務従事者の資格や業務内容及び国民への業務の提供システムについては、多くの法規によって規制されている。さらに、関係する保健医療従事者との連携・協働も法規で求められている。したがって、保健医療行政の役割や仕組み及び関係法規の体系や内容を理解することは、看護職が自己の役割や責任を果たす上で欠かすことのできないことであることを学ぶことが目的である。		
到達目標	1. 保健医療活動における行政の役割と仕組み及び行政の基盤である関係法規の体系を理解する。 2. 医事と薬事に関する主要な法規の内容を理解する。 3. 保健衛生と予防衛生に関する主要な法規の内容を理解する。 4. 学校保健と労働衛生（産業保健）に関する主要な法規の内容を理解する。		
テキスト	1. 森山幹夫「系統看護学講座 専門基礎分野　看護関係法令（第53版）」（医学書院） 2. 医療情報科学研究所編集「公衆衛生がみえる 2020-2021」（メディックメディア） 3. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向　2021/2022」（厚生労働統計協会）		
参考書	1. その他、必要に応じプリント配付		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	・定期試験（100点）：到達目標に関する定期試験（筆記試験）によって、目標の達成度を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	・「保健医療福祉行政」のうちの「福祉分野の行政と法規」については、2年次の「社会福祉論」で履修済みなので、復習に努め、「保健医療分野」と「福祉分野」を関連させながら学習すること。 ・講義は教科書、配布プリントをもとに進めます。該当部分に目を通して授業に臨むこと。 ・各医療従事者の資格法については、共通的事項について「医療従事者の資格・業務に関する基本的な考え方」として講義し他の部分は省略するが、医師法、歯科医師法、保助看法については更に特殊的事項についてだけ触れる。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域保健活動体験を講義に織り交ぜながら、衛生法規を学ぶ重要性を理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（小川）	学習の主題	衛生法規の概要
		授業内容	1. 法規の概要 1）法の概念 2）法の種類 3）他の面からみた法の種類 4）法規の効力の優劣 5）その他の法規に関する事項 2. 衛生法規の概念 3. 衛生法規の分類
		事前・事後学習	事前に配付プリントで予習し、事後にプリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する。
	2（近藤）	学習の主題	看護師法
		授業内容	1. 保健師助産師看護師法 2. 看護師等の人材確保の促進に関する法律
		事前・事後学習	事前に配付プリントで予習し、事後にプリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する。

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	3 （小川）	学習の主題	医事法・薬事法
		授業内容	1. 医療法 2. 医療従事者の資格・業務に関する基本的な考え方 3. 医師法・歯科医師法 4. 医薬品医療機器等法 5. 麻薬及び向精神薬取締法
		事前・事後学習	事前に配付プリントで予習し、事後にプリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する。
	4 （槌本）	学習の主題	保健衛生法規
		授業内容	1. 地域保健法 2. 健康増進法 3. がん対策基本法
		事前・事後学習	事前に配付プリントで予習し、事後にプリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する。
	5 （小川）	学習の主題	保健衛生法規
		授業内容	1. 高齢者医療確保法 2. 精神保健福祉法
		事前・事後学習	事前に配付プリントで予習し、事後にプリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する。
	6 （近藤）	学習の主題	保健衛生法規
		授業内容	1. 母子保健法 2. 母体保護法
		事前・事後学習	事前に配付プリントで予習し、事後にプリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する。
	7 （小川）	学習の主題	予防衛生法規
		授業内容	1. 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法） 2. 予防接種法
		事前・事後学習	事前に配付プリントで予習し、事後にプリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する。
	8 （小川）	学習の主題	学校保健法規と労働衛生（産業保健）法規
		授業内容	1. 学校保健安全法 2. 労働安全衛生法
		事前・事後学習	事前に配付プリントで予習し、事後にプリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する。

授業科目	保健統計学Ⅰ Health Statistics	担当教員	志渡　晃一、米田　龍大
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業目的	人口統計と保健・医療統計について学習し，人口構造や動向と社会・医療とのつながりを理解する。		
到達目標	保健・医療・福祉にかかわる統計調査の基礎について理解し，広い視点から説明できるようになる。		
テキスト	1. 鈴木庄亮 「シンプル衛生公衆衛生学 2020」（南江堂） 2. 厚生労働統計協会 「国民衛生の動向 2020/2021 年版」		
参考書			

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	目標の到達状況を定期試験により評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	定期試験を受験しなかった場合，評価の対象としません。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（志渡）	学習の主題	ガイダンス
		授業内容	講義目的，内容の概説
		事前・事後学習	
	2（志渡）	学習の主題	統計調査概論
		授業内容	統計調査の意義と役割，保健統計の種類
		事前・事後学習	講義内容を復習する
	3（志渡）	学習の主題	人口統計①
		授業内容	人口静態統計
		事前・事後学習	講義内容を復習する
	4（志渡）	学習の主題	人口統計②
		授業内容	人口動態統計
		事前・事後学習	講義内容を復習する
	5（志渡）	学習の主題	人口統計③
		授業内容	生命表，平均寿命，平均余命，健康寿命，年齢調整死亡率，SMR
		事前・事後学習	講義内容を復習する
	6（志渡）	学習の主題	社会調査概論①
		授業内容	国民生活基礎調査
		事前・事後学習	講義内容を復習する
	7（志渡）	学習の主題	社会調査概論②
		授業内容	国民健康・栄養調査
		事前・事後学習	講義内容を復習する
	8（志渡）	学習の主題	保健統計概論①
		授業内容	我が国の保健統計
		事前・事後学習	講義内容を復習する
	9（米田龍大）	学習の主題	保健統計各論①
		授業内容	患者調査、国際疾病分類、精神保健関連統計
		事前・事後学習	講義内容を復習する

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	10 （米田龍大）	学習の主題	保健統計各論③
		授業内容	感染症発生動向調査
		事前・事後学習	講義内容を復習する
	11 （志渡）	学習の主題	保健統計各論④
		授業内容	学校保健統計
		事前・事後学習	講義内容を復習する
	12 （未定）	学習の主題	保健統計各論⑤
		授業内容	母子保健統計
		事前・事後学習	講義内容を復習する
	13 （未定）	学習の主題	医療体制の動向
		授業内容	医療保険制度，公費医療，国民医療費
		事前・事後学習	講義内容を復習する
	14 （未定）	学習の主題	保健統計各論③
		授業内容	感染症発生動向調査
		事前・事後学習	講義内容を復習する
	15 （志渡）	学習の主題	まとめ
		授業内容	
		事前・事後学習	

授業科目	成人看護活動論Ⅲ Adult Nursing Ⅲ	担当教員	佐藤　郁恵、加藤　剛寿、伊藤　円、 小野　善昭、大橋　和貴
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1 単位
授業目的	成人期にある対象の紙上事例を基に、看護過程の一連の流れを理解し展開する。また、この科目の学びを成人看護実習で活用できるようになることを目指し、患者・家族の対象理解を深めるための思考過程を整え、看護問題を解決するための看護実践能力の基盤を培う。		
到達目標	1. 対象理解に必要な情報がわかる。 2. 意図的な情報収集とその方法がわかり説明できる。 3. 得られた情報とその人にとっての意味を考え、個別的な看護計画に繋げることができる。 4. アセスメント同士のつながりを考えて描画し、対象を全体的に捉え、他者に説明することができる。 5. 看護問題を解決するための、具体的で根拠のある看護計画を立案することができる。 6. 看護実践によってもたらされる状態を期待される結果として具体的に表現できる。 7. 事例シミュレーションで成人看護実習に必要な基盤となる知識・技術・態度を身につけることができる。		
テキスト	1. 野崎真奈美他編「成人看護学　成人看護技術」（南江堂） 2. 矢永勝彦他編「系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論」（医学書院） 3. 北島政樹他編「系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論」（医学書院）		
参考書	科目の中で適宜紹介する。		

評価方法・基準

評価方法	評価割合（%）	評価基準
試験		目標に沿って、提出物で総合的に評価する。提出物は期限、提出方法を遵守する。提出期限に遅れたものは評価の対象としない。提出物の配点は、アセスメント 40%、全体像 20%、看護計画 20%、シミュレーション 20%。詳細はガイダンス時に説明する。
レポート		
小テスト		
提出物	100%	
その他		

履修上の留意事項	成人看護実習Ⅰおよび Ⅱの先修要件にかかわる科目です。この科目は、成人看護学の視点で紙上事例のアセスメントに取り組み、看護過程についての理解を深めるとともに、実習前の準備状況を整えるための内容になっています。看護過程に対する理解を深められるように、それぞれが主体的に取り組み、学習してください。また、シミュレーション演習では臨床場面を想定して行いますので、基礎的な看護実践能力を修得できるよう練習と振り返りを行ってください。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護の経験や現場での事例などを演習に織り交ぜながら、それぞれの内容について理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容

回数（担当）	項目	内容
1（加藤）（全担当教員）	学習の主題	成人期にある患者・家族の看護過程の展開：アセスメント①
	授業内容	1. ガイダンス（科目の目的、方法、評価、成人看護実習との関連） 2. 情報の整理、不足している情報の明確化、意図的な情報収集・方法 3. アセスメント
	事前・事後学習	事前学習：事例に沿って、看護につながるよう病態ならびに治療を予習する。 事後学習：アセスメントの見直し、修正
2（加藤）（全担当教員）	学習の主題	看護過程の展開：アセスメント②
	授業内容	1. アセスメントの振り返り 2. 情報の整理、不足している情報の明確化、意図的な情報収集・方法 3. 関連図の書き方
	事前・事後学習	事前学習：前回までのアセスメントを見直し、他者に説明できるようにしておく。 事後学習：アセスメントの見直し、修正、関連図の作成
3（加藤）（全担当教員）	学習の主題	看護過程の展開：アセスメントのまとめ③、全体像①
	授業内容	1. 全体像の共有、他者への説明 2. 関連図の描画の視点
	事前・事後学習	事前学習：前回までのアセスメントを見直し、他者に説明できるようにしておく。また、関連図を作成しておく。 事後学習：アセスメントの提出

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4 （加藤） （全担当教員）	学習の主題	看護過程の展開：全体像②
		授業内容	1. 全体像の共有、他者への説明 2. 看護問題の明確化
		事前・事後学習	事前学習：関連図を修正しておく。 事後学習：全体像の提出
	5 （伊藤） （全担当教員）	学習の主題	看護過程の展開：看護計画の立案①
		授業内容	1. 具体的かつ根拠のある看護計画の立案 2. 全体像、目標、期待される結果と看護の関連を共有、他者への説明
		事前・事後学習	事前学習：具体的な看護に結びつくよう参考書を選定、持参する。 事後学習：看護計画の見直し、修正
	6 （伊藤） （全担当教員）	学習の主題	看護過程の展開：看護計画の立案②
		授業内容	1. 具体的かつ根拠のある看護計画の立案 2. 次回シミュレーションのガイダンス
		事前・事後学習	事前学習：看護計画を振り返り、修正しておく 事後学習：看護計画の提出
	7 （伊藤） （全担当教員）	学習の主題	看護過程の展開：シミュレーション
		授業内容	事例に沿ったシミュレーションを体験し、それぞれの役割を通じて看護実践を振り返り、成人看護実習に必要な看護実践能力の基礎を身につける。 ※７回、８回は２コマ連続で行う。（２クラス展開）
		事前・事後学習	事前学習：事例の看護を実践するために必要な看護技術の予習 事後学習：シミュレーションの振り返り用紙の記入、提出
	8 （伊藤） （全担当教員）	学習の主題	看護過程の展開：シミュレーション
		授業内容	事例に沿ったシミュレーションを体験し、それぞれの役割を通じて看護実践を振り返り、成人看護実習に必要な看護実践能力の基礎を身につける。 ※７回、８回は２コマ連続で行う。（２クラス展開）
		事前・事後学習	事前学習：事例の看護を実践するために必要な看護技術の予習 事後学習：シミュレーションの振り返り用紙の記入、提出

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="2">成人看護実習Ⅰ
Adult Nursing : Practicum Ⅰ</td><td>担当教員</td><td>小野　善昭、佐藤　郁恵、大橋　和貴、
加藤　剛寿、伊藤　円</td></tr>
<tr><td>対象学科・
年次・学期</td><td colspan="2">看護学科・3 年次・通年</td><td>選択・必修</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="2">実習</td><td>単位数</td><td>3 単位</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="4">急性期にある患者・家族を多側面からアセスメントし、患者・家族の健康段階に応じた知識・技術・態度を養う。特に、身体侵襲が患者に及ぼす影響について理解を深めるとともに、心身の侵襲を最小限にし、回復のための看護過程を展開する。</td></tr>
<tr><td>実習目標</td><td colspan="4">1. 身体的・心理的・社会的側面から患者・家族のおかれた状況を理解できる。
2. 急性期（急性疾患、周手術期、慢性疾患の急性増悪等）における患者の健康上の課題をとらえ、看護過程を展開することができる。
3. 患者・家族を生活者の視点でとらえ、回復促進のための援助ができる。
4. 保健医療チームの一員として看護職の役割を理解するとともに、その責任を果たすことができる。
5. 看護学生としての責任を自覚し、倫理的行動をとることができる。
6. 看護専門職を目指す学生として、常に実習を振り返り自己成長を目指すことができる。</td></tr>
<tr><td>実習内容</td><td colspan="4">急性期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する。
詳細は実習要項を参照のこと。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">評価方法・
基準</td><td>評価方法</td><td>評価割合（%）</td><td colspan="2">評価基準</td></tr>
<tr><td>試験</td><td rowspan="5">100%</td><td colspan="2" rowspan="5">実習要項に記載の評価表に基づき総合的に評価する。
評価基準は別紙ルーブリック表を使用する。</td></tr>
<tr><td>レポート</td></tr>
<tr><td>小テスト</td></tr>
<tr><td>提出物</td></tr>
<tr><td>その他</td></tr>
<tr><td>履修上の
留意事項</td><td colspan="4">これまでの知識の積み上げが重要になってきます。実習に臨む前に事前学習を十分に行ってきてください。
また、実習前オリエンテーションは学内で行われるもの以外に、実習施設で行われるものもあります。
いずれも実習に臨むための大切なオリエンテーションですので必ず出席してください。</td></tr>
<tr><td>実務経験を
活かした教育内容</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>実習方法</td><td colspan="4">詳細は実習要項を参照のこと。</td></tr>
<tr><td>実習施設</td><td colspan="4">札幌東徳洲会病院、札幌徳洲会病院、札幌医科大学附属病院、手稲渓仁会病院</td></tr>
</table>

授業科目	成人看護実習 II Adult Nursing : Practicum II	担当教員	小野　善昭、加藤　剛寿、伊藤　円、 大橋　和貴、佐藤　郁恵
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	3 単位
ねらい	成人期にある患者・家族が、疾患を抱えながら生活することの意味を捉え、疾患そのものや治療が与える、心身ならびに生活の営みへの影響を理解するとともに、そのセルフケアを支えるための基礎的な看護実践力を修得する。また、継続的な療養生活に向けた社会資源の活用、地域の保健医療福祉チームとの連携、看護の役割を学ぶ。		
実習目標	1. 身体的・心理的・社会的側面から患者・家族のおかれた状況を統合的に理解できる。 2. 慢性的に経過する疾患を抱える患者・家族の看護上の問題を明らかにし、看護過程を展開できる。 3. 看護実践における人間関係形成の重要性を認識し、相互に成長することの意味を深め、援助的人間関係を形成できる。 4. 保健医療チームの一員として看護職の役割を理解するとともに、その責任を果たすことができる。 5. 看護学生としての責任を自覚し、倫理的行動をとることができる。 6. 看護専門職を目指す学生として、常に実習を振り返り自己成長を目指すことができる。		
実習内容	原則として、慢性期・回復期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する。 詳細は、実習要項を参照のこと。		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	実習要項に記載の評価表に基づき総合的に評価する。 評価基準は別紙ルーブリック表を使用する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	これまでの知識の積み上げが重要になってきます。実習に臨む前に事前学習を十分に行ってきてください。 また、実習前オリエンテーションは学内で行われるもの以外に、実習施設で行われるものもあります。いずれも実習に臨むための大切なオリエンテーションですので必ず出席してください。
実務経験を活かした教育内容	
実習方法	詳細は、実習要項を参照のこと。
実習施設	柏葉脳神経外科病院、北海道がんセンター、札幌渓仁会リハビリテーション病院、西成病院、愛育病院

授業科目	高齢者看護活動論 II Gerontological Nursing II	担当教員	中田　真依、萩野　悦子
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1 単位
授業目的	本科目では、紙上事例を用いて老年期にある対象への看護過程を展開し、病院実習に向けた看護実践能力を養う。また、介護老人保健施設での看護の実際や保健医療福祉チームの連携の在り方について理解し、介護老人保健施設実習に向けた基礎的能力を養う。これらの学修を通して臨地実習で活用できることを目指す。		
到達目標	1. 紙上事例をもとに老年期にある対象への看護過程を展開できる。 1）事例の健康状態と生活機能の視点からアセスメントできる。 2）アセスメントを統合し、関連図の作成を経て全体像と看護問題、援助の方向性を明確化できる。 3）対象の強みを活かし、個別性に応じた看護目標や看護計画を立案できる。 4）個別指導やグループワークを通して自らの看護過程を振り返り、修正できる。 2. 介護老人保健施設の役割と機能および看護の実際と保健医療福祉チームの在り方について説明できる。		
テキスト	1. 北川公子編「系統看護学講座 専門分野 II 老年看護学」（医学書院） 2. 山田律子編「生活機能からみた老年看護過程」（医学書院）		
参考書	1. 江川隆子「ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断」（ヌーベルヒロカワ） 2. 正木治恵「パーフェクト臨床実習ガイド－ライフステージに沿った看護技術と看護の展開－老年看護実習ガイド」（照林社） 3. 大川弥生著「生活機能とは何か -ICF：国際生活機能分類の理解と活用 -」（東京大学出版会）		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標の到達状況を、事前課題および看護過程課題、小テストから総合的に評価する。 事前課題 10 点、看護過程課題 70 点 （アセスメント 24 点、関連図・全体像と看護問題および援助の方向性 20 点、看護計画 16 点、2 回目提出時の改善度 10 点） 小テスト 20 点
	レポート		
	小テスト	20%	
	提出物	80%	
	その他		

履修上の留意事項	高齢者看護学概論、高齢者看護活動論 I を復習し、必要な準備を整えて臨むこと（個人パソコン、電子媒体、関連資料等）。提出物が遅れた場合は原則受け取らない。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における事例などを織り交ぜながら、老年期にある対象の看護過程について理解しやすいよう講義・演習を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（中田）	学習の主題	ガイダンス・講義
		授業内容	本科目の目的・目標、学習内容と方法、履修上の留意事項と評価方法・基準、テキスト等を説明する 【看護過程演習】のガイダンス：紙上事例をもとにアセスメント、関連図、全体像と看護問題および援助の方向性、看護計画を作成し、指定された日時に提出する（2 回に分けて提出）
		事前・事後学習	事前学習：高齢者看護活動論 I の復習やシラバスを熟読し、講義の準備をする 事後学習：提示された課題を開始する
	2（中田）	学習の主題	講義：老年期にある対象の看護過程①
		授業内容	老年期にある対象の看護過程とアセスメントの視点について理解する
		事前・事後学習	事前学習：講義内容を予習する 事後学習：講義内容を参考に課題をすすめる
	3（中田）	学習の主題	講義：老年期にある対象の看護過程②
		授業内容	老年期にある対象の看護過程（関連図、全体像と看護問題および援助の方向性、看護計画、看護経過記録、評価）について理解する
		事前・事後学習	事前学習：講義内容を予習する 事後学習：講義内容を参考に課題をすすめ、指定された期限に提出する（第 1 回提出）

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4 （中田）	学習の主題	講義：介護老人保健施設の実際 （ゲストスピーカー：介護老人保健施設に勤務する老人看護専門看護師）
		授業内容	介護老人保健施設の看護の実際や保健医療福祉チームの在り方について理解する
		事前・事後学習	事前学習：高齢者看護学概論の介護保険法に関する講義内容を復習する 事後学習：講義内容を復習する
	5 （全員）	学習の主題	紙上事例の看護過程の展開①　個別指導
		授業内容	第 1 回提出課題（アセスメント、関連図、全体像と看護問題および援助の方向性）に対する個別指導を受ける
		事前・事後学習	事前学習：個別指導に向けて作成した課題を見直す 事後学習：個別指導をもとに課題を修正し、看護計画を作成して指定された期限に提出する（第 2 回提出）
	6 （全員）	学習の主題	紙上事例の看護過程の展開②　グループワーク
		授業内容	第 2 回提出課題を返却する 返却された課題をもとに関連図、全体像と看護問題および援助の方向性、看護計画をグループ内で共有し、内容をまとめて提出する
		事前・事後学習	事前学習：グループで共有できるよう事例を読み込む 事後学習：グループで共有した内容を復習する
	7 （中田）	学習の主題	小テスト 講義：老年期にある対象の看護過程③
		授業内容	小テスト（介護老人保健施設他）30 分程度 老年期にある対象の看護過程課題をフィードバックする
		事前・事後学習	事前学習：介護保険法や介護老人保健施設に関する講義内容や事前課題を復習し、小テストに備える 作成した課題を復習し、講義に持参する 事後学習：高齢者看護実習に向けて講義内容を復習する
	8 （中田）	学習の主題	講義：老年期にある対象の看護過程④ 高齢者看護活動論Ⅱのまとめ
		授業内容	老年期にある対象の看護過程課題をフィードバックする 高齢者看護活動論Ⅱの総括
		事前・事後学習	事前学習：作成した課題を復習し、講義に持参する 事後学習：高齢者看護実習に向けて講義や小テストの内容を復習する

<table>
<tr><td>授業科目</td><td>高齢者看護実習
Gerontological Nursing Practicum</td><td>担当教員</td><td>萩野　悦子、中田　真依</td></tr>
<tr><td>対象学科・
年次・学期</td><td>看護学科・3 年次・通年</td><td>選択・必修</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>実習</td><td>単位数</td><td>4 単位</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="3">本科目では、健康課題をもつ老年期にある対象への看護実践能力を、看護実践の展開、対人関係の形成、社会資源の活用とチーム連携、倫理的行動と問題認識の 4 つの課題のもとに修得する。病院実習と介護老人保健施設実習を通して、老年期にある対象を全人的に理解し、対象や家族が望む目標を志向しながら、健康課題や生活機能に応じた看護をエンドオブライフ・ケアの視点で実践する基礎的知識・技術・態度を養う。
また、老年期にある対象を取り巻く環境や家族関係を踏まえ、保健医療福祉チームにおける専門職連携の在り方を理解し、看護師の役割を果たすための能力を養う。さらに、実習の過程を通して、看護専門職を志す学生として主体的に学習し、倫理的側面からの学びを経て高齢者看護学の実践に繋がる感性を養う。病院実習では、老年期にある対象への看護を展開し、高齢者への看護実践能力を修得する。介護老人保健施設実習では、施設の機能や役割を理解し、施設内で生活する高齢者への看護の実際を学ぶ。
また、病院実習、介護老人保健施設実習を通して高齢者を取り巻く環境や家族関係等をふまえ、社会資源の活用、保健医療福祉チームの連携の実際と看護師の役割、高齢者の倫理的課題を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>実習目標</td><td colspan="3">1．老年期にある対象を身体的・心理的・社会的・発達的側面、および価値・信念を捉え全人的に理解し、対象や家族が望む援助の方向性について余生を踏まえて説明できる。
2．老年期にある対象に必要な看護計画を立案し、目標を志向した看護援助を実施・評価できる。
3．介護老人保健施設の役割と機能を理解し、参加観察や利用者との交流から看護の在り方や利用者を支える専門職の役割・連携について説明できる。
4．看護学生として責任を自覚し、老年期にある対象の倫理的課題を思考できる。</td></tr>
<tr><td>実習内容</td><td colspan="3">病院実習 3 週間（3 単位）と、介護老人保健施設 1 週間（1 単位）の合計 4 週間（4 単位）の実習である。
本実習内容の詳細は、実習要項に沿ってオリエンテーション時に説明する。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">評価方法・
基準</td><td>評価方法</td><td>評価割合（%）</td><td>評価基準</td></tr>
<tr><td>試験</td><td rowspan="5">100%</td><td rowspan="5">目標到達度を実習の評価基準において評価する。
※実習要項参照</td></tr>
<tr><td>レポート</td></tr>
<tr><td>小テスト</td></tr>
<tr><td>提出物</td></tr>
<tr><td>その他</td></tr>
<tr><td>履修上の
留意事項</td><td colspan="3">高齢者看護学の講義内容を復習し、講義資料や作成した課題（脳卒中、認知症、事前課題）を準備して実習に臨むこと。</td></tr>
<tr><td>実務経験を
活かした教育内容</td><td colspan="3">実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、老年期にある対象の看護について理解しやすいよう実習指導を行います。</td></tr>
<tr><td>実習方法</td><td colspan="3">実習方法の詳細は実習要項を参照すること。主な内容として、病院実習では老年期にある対象を受け持ち看護過程を展開する。介護老人保健施設実習では特定の高齢者を受け持たず、施設に入所もしくは通所している様々な高齢者と関わり学びを得る。</td></tr>
<tr><td>実習施設</td><td colspan="3">病院：愛全病院、イムス札幌内科リハビリテーション病院、札幌白石記念病院、札幌西円山病院、北祐会神経内科病院

介護老人保健施設：あつべつ、グラーネ北の沢、ディ・グリューネン、ひまわり、もえれパークサイド</td></tr>
</table>

授業科目	小児看護活動論Ⅱ Pediatric Nursing Ⅱ	担当教員	河崎　和子、佐々木　めぐみ
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1 単位
授業目的	本科目では、既習の概論、活動論Ⅰの学習内容を臨地実習で活用できることを目的とし、小児と家族の看護をしていくうえで必要な知識・技術・態度を学ぶ。保育園演習では、乳幼児との関わりの実際から成長発達を理解し、個々の成長発達段階に対応した生活支援のあり方を学ぶ。学内においては保育園演習を想起し、紙上事例を用いて小児の健康上の課題をアセスメント、看護計画立案、計画に沿った実施、評価について学習する。また、臨地実習が効果的な学習になるように看護記録の意義と目的を理解し実践できることを目的とする。		
到達目標	1. 保育園演習では、子どもの成長発達の特徴を理解し成長発達段階に対応した生活支援について理解する。 2. 学内演習においては、事例の小児と家族の健康状態を既習のアセスメントツールを用いてアセスメントできる。 3. 2をもとに事例の小児と家族の全体像を把握し、看護問題を明確化できる。 4. 3で明らかになった看護問題を解決するため具体的かつ科学的根拠に基づいた看護計画を立案できる。 5. 4の看護計画立案では安全性、安楽性、成長・発達を考慮したケアの内容（プレパレーション）が考えられる。 6. 看護問題が解決、改善されたかを判断する看護評価の視点が考えられる。		
テキスト	1. 小林京子他編「新体系看護学全書　小児看護学①　小児看護学概論／小児保健」（メヂカルフレンド社） 2. 小林京子他編「新体系看護学全書　小児看護学②　健康障害をもつ小児の看護」（メヂカルフレンド社）		
参考書	1. 岡田洋子他「小児看護２　小児の主要症状とケア技術」（医歯薬出版） 2. 石黒彩子編「発達段階からみた小児看護過程」（医学書院） 3. 新看護観察のキーポイントシリーズ「小児Ⅰ」（中央法規） 4. 白木和夫「ナースとコメディカルのための小児医学」（日本小児医事出版） 5. 及川郁子・田代弘子編集「病気の子どもへのプレパレーション」（中央法規） 6. 山本恵子監修「写真でわかる小児看護技術　改訂２版」（インターメディカ）		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標への到達状況をレポート、提出物により総合的に評価する。 １．レポートは保育園演習の学びをレポートする（50 点）。 ２．提出物は、事例に関する看護過程展開に関する一式（30 点）・発表（10 点）および、事例展開から学び得たことと自己の課題について A4　2 枚程度（10 点）から総合的に評価する。
	レポート	50%	
	小テスト		
	提出物	50%	
	その他		

履修上の留意事項	本科目は、小児看護実習に臨むうえで総括的な意味をもつ科目であるため、各自、小児看護学概論、小児看護活動論Ⅰを十分に復習して授業に取り組むこと。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を組み込み、理解しやすい授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （河崎） （佐々木）	学習の主題	ガイダンス（紙上事例の看護過程 / 保育園演習）
		授業内容	【ガイダンス】本科目の学習目的・目標および学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項とテキスト参考図書について説明する。 【紙上事例の看護過程】 ・小児の手術についてその特徴と看護のポイントを復習し、学びを深める。 ①　手術を受ける子どもの観察と看護にポイント（復習） ②　プレパレーション（復習） ③　事例提示と看護過程展開方法及び課題の説明・グループの説明 【保育園演習】 ・保育園演習の目的、方法、時間、場所、グループメンバーの説明
		事前・事後学習	事前学習：小児看護活動論Ⅰの事例の看護過程展開について復習しておく。 事後学習：各自事例の看護過程を展開する。事例の情報を整理し、必要な視点・援助をアセスメントシートに記載し、効率よくグループワークできるように準備する。
	2 （河崎） （佐々木）	学習の主題	手術（習慣性扁桃炎）を受ける幼児の事例展開①（グループワーク）
		授業内容	・全身麻酔に伴う事例①幼児のアセスメントと発達段階を考慮した援助の必要性を考える。 ・習慣性扁桃炎の疾患の特性をふまえ、事例に必要な入院時、手術前、手術後の看護援助を検討する。
		事前・事後学習	事後学習：事例①に必要な援助を具体的に考え、立案する。

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	3 （全担当教員）	学習の主題	手術（習慣性扁桃炎）を受ける幼児の事例展開②（グループワーク）
		授業内容	・習慣性扁桃炎の疾患の特性をふまえ、事例に必要な入院時、手術前、手術後の看護援助を明確化し、シートに記載する。 ・事例①幼児への看護についてプレパレーションの視点から援助を考える。
		事前・事後学習	事前学習：テーマに関連する疾患等、既習内容を復習しておく。 事後学習：各自、事例の看護過程を展開する。情報をアセスメントシートに整理し、必要な援助を明確化する。
	4 （全担当教員）	学習の主題	手術（習慣性扁桃炎）を受ける幼児の事例展開③（グループワーク）
		授業内容	・事例に必要な援助を使用物品含めて具体的に考え、行動レベルで看護計画を立案する。 ※幼児の発達段階とプレパレーションの視点から援助を考える。
		事前・事後学習	事後学習：看護過程展開を各自、指定された用紙に記載する。
	5 （全担当教員）	学習の主題	手術（習慣性扁桃炎）受ける幼児の看護過程③（グループ発表）
		授業内容	・事例に実施するプレバレーションを実践し評価する。 ※第 5・6 回は続けて行う。 1 グループ発表 7 分、質疑応答 3 分（15 グループ）、全体討議・意見交換時間になったら開始できるように各グループリーダーはパワーポイント、資料配布の準備を速やかに実施してください。 発表順番は事前に掲示します。
		事前・事後学習	事前学習：発表資料を指定された期日までに必要部数印刷して提出する。 事後学習：実施内容を振り返り評価する。
	6 （全担当教員）	学習の主題	手術（習慣性扁桃炎）受ける幼児の看護過程④（グループ発表）
		授業内容	・事例に実施するプレバレーションを実践し評価する。 ※第 5・6 回は続けて行う。 1 グループ発表 7 分、質疑応答 3 分（15 グループ）、全体討議・意見交換時間になったら開始できるように各グループリーダーはパワーポイント、資料配布の準備を速やかに実施してください。 発表順番は事前に掲示します。
		事前・事後学習	事前学習：発表資料を指定された期日までに必要部数印刷して提出する。 事後学習：実施内容を振り返り評価する。 ※第 5・6 回終了後、各自が実施を振り返り、看護過程に関する記録物一式を提出する。また、事例展開を終えて学び得たこと、自己の課題についてレポートを A4　2 枚程度を提出する。提出期日は講義時に伝えます。
	7 （全担当教員）	学習の主題	保育園演習により乳幼児との関わりの実際から成長発達を理解し、個々の成長発達段階に対応した生活支援のあり方を学ぶ。
		授業内容	1. 学生はグループ毎に指定された保育園施設（吉田学園さくら保育園、吉田学園くりの木保育園、吉田学園やしの木保育園）で演習目的に沿って演習を行う。 2. 保育園演習は 9：00～12：30 とする。終了後は、学内に戻り 4 講目より授業を受ける。
		事前・事後学習	ガイダンス内容を各自確認し、演習目的、演習に臨む姿勢を理解し保育園演習に臨む。
	8 （全担当教員）	学習の主題	保育園演習により乳幼児との関わりの実際から成長発達を理解し、個々の成長発達段階に対応した生活支援のあり方を学ぶ。
		授業内容	1. 学生はグループ毎に指定された保育園施設（吉田学園さくら保育園、吉田学園くりの木保育園、吉田学園やしの木保育園）で演習目的に沿って演習を行う。 2. 保育園演習は 9：00～12：30 とする。終了後は、学内に戻り 4 講目より授業を受ける。
		事前・事後学習	ガイダンス内容を各自確認し、演習目的、演習に臨む姿勢を理解し保育園演習に臨む。

授業科目	小児看護実習 Pediatric Nursing Practicum	担当教員	河崎　和子、佐々木　めぐみ
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	2 単位
ねらい	小児期の健康課題・問題をもつ子どもと家族に対しての看護実践展開能力、対人関係の形成、社会資源の活用とチームワーク連携、倫理的行動を習得する。対象となる子どもと家族の健康状態を明らかにし、成長発達段階に応じた日常生活支援および健康の回復、維持、増進を図るための看護のあり方について学ぶ。 また、実践を通じて、子どもを主体的な存在として尊重する姿勢を身につけるとともに、小児を取り巻く保健・医療・福祉および教育の連携の重要性を学び、チームにおける看護の役割を理解する。		
実習目標	1. 受けもった子どもと家族（対象者）とのコミュニケーション・観察を通して、健康障害および入院に伴う生活の変化や思いを理解し、看護の視点から優先度の高い看護問題を明らかにできる。 2. 明らかになった優先度の高い看護問題に対して看護計画を立案し、対象者の発達段階を考慮し実践できる。 3. 実践した看護が有効であったかを対象者の反応から評価し計画の修正ができる。 4. 実習生として子どもと家族の安全と人権に配慮し、自覚と責任をもち主体的に取り組むことができる。 5. 子どもと家族への看護を通して、医療チームにおける小児看護の専門性と自分の考えを考察できる。		
実習内容	実習内容の詳細は、実習要項を用いてオリエンテーション時に説明する。		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	実習目標到達度を評価基準に基づき評価し、60 点以上を合格とする。 ＊評価項目および評価基準は実習要項参照
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	実習病院により対象である小児の健康障害の内容や程度が異なるので、講義・演習の学習内容の復習の他、実習前に提示された事前学習を行い実習に取り組むこと。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、小児期にある対象の看護について理解しやすいよう実習指導を行います。
実習方法	1. 実習は 2 週間とする。 2. 実習初日は、学内において小児看護技術を中心に演習内容を復習する。 3. 実習 2 日目から 2 週目木曜日まで病院実習を行う。 4. 2 週目の実習最終日金曜日は学内で記録整理を行い提出する。 5. 病院実習初日には、各施設の管理者および病棟管理者、指導者より病院および病棟オリエンテーションを受ける。 6. 対象は健康障害をもつ小児と家族である。 7. 対象は急性期、慢性期、回復期、周手術期と多岐にわたり、発達段階は乳児期から思春期にわたる。 8. 病院実習の最終日にカンファレンスを行い、受けもち患児と家族への看護から学びを共有する。 ＊実習方法の詳細は実習要項をもとにオリエンテーションを実施するので必ず出席すること。
実習施設	JCHO 札幌北辰病院、JCHO 北海道病院、札幌北楡病院、市立札幌病院、手稲渓仁会病院、 北海道立子ども総合医療・療育センター、札幌医科大学附属病院

授業科目	母性看護活動論Ⅱ Maternal and Newborn Care Nursing Ⅱ	担当教員	澤田　優美、齋藤　早香枝、野崎　由希子
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1 単位
授業目的	母子および家族の看護をしていくうえで必要な知識・技術・態度を習得するために、事例を用いて基本的な看護過程の展開を行う。既習の知識を整理・統合しながら、事例の情報をアセスメントし、健康課題に対する看護計画の立案および実施、評価について学習する。統合体としての対象者の全体像を理解し、健康課題を明らかにする過程で、健康の保持・増進への看護についても学ぶ。母性を取り巻く地域の保健医療福祉チームとの連携・協働について理解を深める。		
到達目標	1. 事例の妊娠期・分娩期の経過を踏まえ、ウエルネス的視点で褥婦の健康課題を考えることができる。 2. 褥婦の健康課題を解決するために必要な看護ケアとその根拠を理解する。 3. 事例の産褥経過についてアセスメントを行い、個別の看護援助を考えることができる。 4. 早期新生児期にある児が胎外生活に適応する変化の過程をアセスメントすることができる。 5. 事例に必要な看護援助技術を修得する。 6. 事例を通じて、地域の保健医療福祉チームとの連携・協同について理解する。 7. 産褥期の看護を展開する上で必要な基本的知識を復習する。		
テキスト	1. 森　恵美著者代表「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論」（医学書院） 2. 森　恵美著者代表「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論」（医学書院）		
参考書	講義の中で、随時紹介する。 ＊母性看護学のアセスメントに必要なツールは講義時に配布する。		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70%	目標への到達状況を筆記試験、小テスト、提出物、により総合的に評価する。 母性看護の対象者に必要な援助を具体的に考えるための課題を課す。詳細は授業で説明する。 小テストでは、妊産褥婦、および新生児期の看護を展開する上で必要な基礎的知識を問う。
	レポート		
	小テスト	15%	
	提出物	15%	
	その他		

履修上の留意事項	母性看護活動論Ⅰの学習内容を踏まえて授業は行われます。個人の課題学習をしっかり行って授業に臨んでください。初回の授業を受ける前に、母性看護活動論Ⅰの事例情報と、看護過程授業資料を読んで臨むこと。また、その資料を必ず持参してください。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を講義に組み込み、理解しやすい授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（澤田）	学習の主題	帝王切開術を受ける患者の看護
		授業内容	帝王切開術を受ける患者の看護を理解する。
		事前・事後学習	事前学習：母性看護活動論Ⅰの 事後学習：課題の実施と提出
	2（澤田）	学習の主題	産褥期の看護過程　①
		授業内容	1. 産褥期の褥婦に対するアセスメントを理解する。 2. 褥婦のもつ健康課題を解決するために必要な看護の要点を理解する。
		事前・事後学習	事後学習：事例の情報をアセスメントする。（課題の実施）
	3（澤田）	学習の主題	産褥期の看護過程　②
		授業内容	1. 産褥期の看護過程の評価について理解する。 2. 退院後の生活を見通した援助について理解する。
		事前・事後学習	事後学習：看護援助の評価をまとめる。（課題の実施、提出）
	4（澤田）	学習の主題	産褥期の看護過程　③
		授業内容	産褥期のマイナートラブルに対する援助を理解する。
		事前・事後学習	事前学習：事例の情報を読んでおく。 必要な資料を準備する。 事後学習：マイナートラブルに対する援助をまとめる。（課題の実施、提出）

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	5 (澤田)	学習の主題	産褥期の看護過程　④
		授業内容	産褥期のマイナートラブルに対する援助を理解する。
		事前・事後学習	事前学習：事例の情報を読んでおく。 必要な資料を準備する。 事後学習：マイナートラブルに対する援助をまとめる。(課題の実施、提出)
	6 (澤田)	学習の主題	新生児期の看護過程
		授業内容	早期新生児期にある児が胎外生活に適応する変化の過程を理解する。 早期新生児期にある児のアセスメントと看護援助を理解する。
		事前・事後学習	事後学習：新生児期の看護に関する課題を実施、提出する。
	7 (全担当教員)	学習の主題	妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護援助　①
		授業内容	新生児期の看護援助技術（沐浴、全身観察、バイアルサイン測定）
		事前・事後学習	事前学習：看護技術について予習しておく。
	8 (全担当教員)	学習の主題	妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護援助　②
		授業内容	新生児期の看護援助技術（沐浴、全身観察、バイアルサイン測定）
		事前・事後学習	事前学習：看護技術について予習しておく。 事後学習：自らの看護技術の到達度を評価し、習得のために自己学習を行う。

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="2">母性看護実習
Maternal Nursing Practicum</td><td>担当教員</td><td>齋藤　早香枝、澤田　優美、野崎　由希子</td></tr>
<tr><td>対象学科・
年次・学期</td><td colspan="2">看護学科・3 年次・通年</td><td>選択・必修</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="2">実習</td><td>単位数</td><td>2 単位</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="4">妊娠、分娩、産褥という時期にある女性が健康的に過ごし、次世代を育成するという発達課題を達成していく過程を支援するために必要な看護を学ぶ。また保育園における乳幼児保育に参加し、対象者の発達課題に応じた日常生活の援助と子育て支援についての考えを深める。実践を通じて倫理的配慮に基づいた行動および多職種と協働できる基礎的能力を身につける。</td></tr>
<tr><td>実習目標</td><td colspan="4">1. 妊娠期から産褥期までのいずれかの過程にある対象者に対し、健康課題を捉え、看護援助の実際を体験する。
2. 保育を受ける乳幼児とその家族への援助を学ぶ。
3. 受け持ち対象者および家族の価値観や権利を尊重し、誠実な態度で実習することができる。
4. 看護学生として他者と協働するうえで基本となる態度を養う。
5. 次世代を育成する発達課題に対する支援と看護者の役割について、自己の学びを考察できる。</td></tr>
<tr><td>実習内容</td><td colspan="4">具体的内容については実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明する。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">評価方法・
基準</td><td>評価方法</td><td>評価割合（%）</td><td colspan="2">評価基準</td></tr>
<tr><td>試験</td><td rowspan="5">100%</td><td colspan="2" rowspan="5">目標到達度を評価基準に基づき、実習場での実習内容・態度・実習記録（90 点）、レポート（10 点）をもとに総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>レポート</td></tr>
<tr><td>小テスト</td></tr>
<tr><td>提出物</td></tr>
<tr><td>その他</td></tr>
<tr><td>履修上の
留意事項</td><td colspan="4">母性看護学に関する基礎知識を身につけて実習に臨むこと。</td></tr>
<tr><td>実務経験を
活かした教育内容</td><td colspan="4">実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、対象の看護について理解しやすいよう実習指導を行います。</td></tr>
<tr><td>実習方法</td><td colspan="4">詳細は、実習要項およびオリエンテーション資料を参照のこと。</td></tr>
<tr><td>実習施設</td><td colspan="4">倶知安厚生病院、札幌医科大学附属病院、市立札幌病院、JCHO 北海道病院、札幌徳洲会病院、
勤医協札幌病院、吉田学園くりの木保育園、吉田学園さくら保育園、吉田学園やしの木保育園</td></tr>
</table>

授業科目	精神看護学概論 Introduction to Psychiatric Nursing	担当教員	佐藤　登代子、原田　由香
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業目的	精神看護の概念や精神障がい者問題の社会的背景に対する理解を深めるとともに、人の成長発達の過程や社会状況の中で生じる危機およびその対応について学ぶ。 現在の精神保健医療福祉および精神看護の動向、歴史的変遷、精神保健福祉法などの精神医療に関する法律、精神看護における倫理的問題と人権保障について学び、精神看護および精神保健の現状と課題について総合的な理解を深める。		
到達目標	1. 精神看護学の考え方について理解できる。 2. 精神保健医療福祉の歴史的変遷と現状について理解することができる。 3. 精神看護学の関連理論および E.H. エリクソンの発達理論の特徴について理解できる。 4. 家庭や職場における対人関係が精神保健に及ぼす影響について理解することができる。 5. 精神科領域で用いられる援助技法としての看護モデルについて理解することができる。 6. 精神看護領域における人権擁護と倫理について理解できる。 7. 精神を病むということがどのようなことかについて理解を深める。		
テキスト	萱間真美、野田文隆編集「看護学テキスト NiCE　精神看護学 I　精神保健・多職種のつながり　こころ・からだ・かかわりのプラクティス」（南江堂）2015 萱間真美、野田文隆編集「看護学テキスト NiCE　精神看護学 II　臨床で活かすケア　こころ・からだ・かかわりのプラクティス」（南江堂）2015		
参考書	＊随時紹介		

評価方法・基準

評価方法	評価割合（%）	評価基準
試験	50%	試験：定期試験を実施し、学習到達度を評価する（50%） 提出物：講義時間内に授業内容に関したワークシートを 2 回課す（20%） その他：各グループにおけるプレゼンテーション（30%）
レポート		
小テスト		
提出物	20%	
その他	30%	

履修上の留意事項	・積極的な姿勢で学習に取り組むこと。 ・事前学習はテキストの該当ページに沿った予習を、事後学習は配布資料にて復習すること。
実務経験を活かした教育内容	・臨床における実務経験に基づいた講義を展開し、精神的健康上の課題について理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容

回数（担当）	項目	内容
1（佐藤）	学習の主題	・ガイダンス：本科目の目的・目標・評価方法について ・こころ（精神）の健康とは
	授業内容	・こころ（精神）の健康とは ・精神看護学の基本的な考え方 ・精神障がいとは
	事前・事後学習	・事前にシラバスを読み、学習内容を確認しておく。 ・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
2（佐藤）	学習の主題	精神保健医療福祉の歴史的変遷と現状
	授業内容	・世界における精神医療の歴史的変遷 ・日本における精神医療の歴史的変遷 ・精神保健関連法規
	事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
3（佐藤）	学習の主題	精神科リハビリテーションとリカバリー概念
	授業内容	・対象喪失という概念とストレングスモデル ・リカバリー
	事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
4（佐藤）	学習の主題	こころの機能と発達
	授業内容	・フロイトのいうこころの構造と発達理論、防衛機制
	事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	5 (佐藤)	学習の主題	ライフサイクルと精神保健①
		授業内容	・乳幼児期・学童期の精神の健康
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	6 (佐藤)	学習の主題	ライフサイクルと精神保健②
		授業内容	・思春期・青年期・成人期・老年期の精神の健康
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	7 (佐藤)	学習の主題	家庭における精神保健
		授業内容	・家庭内のコミュニケーションで起こる精神保健問題
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	8 (佐藤)	学習の主題	職場の精神保健
		授業内容	・職場で起こるハラスメントとその援助
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	9 (原田)	学習の主題	リエゾン精神看護
		授業内容	・リエゾン精神看護とは ・一般病床における精神科的問題と看護 ・看護師のメンタルヘルス ・ゲストスピーカー（CNS）より実務経験に関連した講義を展開してもらう。
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	10 (佐藤)	学習の主題	集団力動論
		授業内容	・SST の理論的背景 ・集団療法の意義
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	11 (佐藤)	学習の主題	・精神看護に用いる理論とモデル①
		授業内容	・治療的人間関係
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	12 (佐藤)	学習の主題	精神看護に用いる理論とモデル②
		授業内容	・セルフケア理論 ・プロセスレコードについて
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	13 (佐藤)	学習の主題	人権を守るために－精神看護における基本的人権と倫理的問題
		授業内容	・人権とは ・医療者が行うべき倫理的配慮 ・精神科医療現場で注意すべきこと ・原則と倫理綱領 ・守秘義務と個人情報の保護 ・患者の権利と人間の尊厳
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	14 (原田)	学習の主題	精神を病むということ①
		授業内容	映画「A Beautiful Mind」視聴
		事前・事後学習	事後学習：ワークシートを整理する。
	15 (原田)	学習の主題	精神を病むということ②
		授業内容	映画「A Beautiful Mind」視聴
		事前・事後学習	事後学習：ワークシートを整理する。

授業科目	精神看護活動論Ⅰ Psychiatric Nursing Ⅰ	担当教員	原田　由香
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業目的	精神疾患に関する病態 ・ 治療等の基礎的知識ならびに精神疾患のある人とその家族に対する看護について学ぶ。		
到達目標	1. 精神障がいをもって生きるということについて理解できる。 2. 生物学的モデルとしての脳と精神とのつながり、神経細胞と神経伝達物質について理解できる。 3. 主な精神疾患の病態と診断 ・ 治療について理解できる。 4. 精神疾患の代表的な検査と治療法について理解できる。 5. 精神科領域における入院治療と看護の展開について理解できる。 6. 精神障がいをもつ人とその家族に対する看護について理解できる。 7. 地域で暮らす精神障がいをもつ人の生活を支援する方法や制度について理解できる。		
テキスト	萱間真美、野田文隆編集「看護学テキスト NiCE　精神看護学Ⅰ　精神保健・多職種のつながり　こころ・からだ・かかわりのプラクティス」（南江堂）2015 萱間真美、野田文隆編集「看護学テキスト NiCE　精神看護学Ⅱ　臨床で活かすケア　こころ・からだ・かかわりのプラクティス」（南江堂）2015		
参考書	＊随時紹介予定		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	到達目標の達成状況について、下記の内容から評価し、60 点以上を合格とする。 試　験：定期試験を実施し、学修到達度で評価する（80%） 提出物：講義時間内に授業内容に関したワークシートを 1 回課す（20%）
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20%	
	その他		

履修上の留意事項	事前学習を行ったうえで受講すること。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス、手記からの学び
		授業内容	・精神看護学の考え方、その対象、役割について ・精神の病を持つ人の手記をもとに、精神を病む人のつらさや周囲の対応について考える
		事前・事後学習	事前にシラバスおよびテキストの該当部分について読んでおく
	2	学習の主題	精神障がいをもって生きるとは
		授業内容	・精神障がいをもって生きることについての理解を深める。
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく
	3	学習の主題	・脳と精神の繋がり（特別講師：医師）
		授業内容	・脳の構造と精神機能 ・神経伝達物質と精神機能
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく
	4	学習の主題	精神科における代表的な検査と治療
		授業内容	・精神科における代表的な検査について ・精神科において用いられる代表的な治療について
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく
	5	学習の主題	薬物療法、電気けいれん療法を受ける人の看護
		授業内容	・薬物療法を受ける人の看護 ・電気けいれん療法を受ける人の看護
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	6	学習の主題	対象を理解するための考え方： 統合失調症①
		授業内容	・統合失調症の病態と治療
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく
	7	学習の主題	対象を理解するための考え方： 統合失調症②
		授業内容	・統合失調症をもつ人とその家族への支援
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく
	8	学習の主題	対象を理解するための考え方：気分障がい①
		授業内容	・気分障がいの病態と治療（薬物・認知療法・対人関係療法、電気けいれん療法）
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく
	9	学習の主題	対象を理解するための考え方： 気分障がい②
		授業内容	・気分障がいをもつ人とその家族への支援
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく
	10	学習の主題	対象を理解するための考え方： 精神作用物質関連障がい
		授業内容	・物質関連障がい（アルコール依存症、薬物依存、ゲーム障害）の病態・治療と看護 ・セルフヘルプグループ
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく
	11	学習の主題	対象を理解するための考え方：行動症候群（摂食障がい）パーソナリティ障がい、性別違和
		授業内容	・生理的障がいおよび身体要因に関連した行動症候群（摂食障がい）、パーソナリティ障がいの病態・治療 ・性別違和の病態 ・ 治療と看護
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく
	12	学習の主題	対象を理解するための考え方：心身症、神経症性障がい、ストレス関連障がい
		授業内容	・心身症の病態・治療と看護 ・神経症性障害の病態・治療と看護 ・ストレス関連障害の病態・治療と看護
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく
	13	学習の主題	対象を理解するための考え方：心理的発達の障がい （ゲストスピーカー：CNS）
		授業内容	・発達障害
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく
	14	学習の主題	地域での自立、統合への支援
		授業内容	・偏見・差別・スティグマ ・精神の健康に関する普及啓発活動 ・精神科訪問看護
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく
	15	学習の主題	精神科領域における看護過程、看護診断
		授業内容	精神科領域で看護過程を展開する際の考え方やアセスメント、看護問題の特徴について学ぶ。
		事前・事後学習	・事前：ゴードンのアセスメントパターンについて復習しておく。

授業科目	在宅看護論Ⅰ Home Care Nursing Ⅰ	担当教員	針金　佳代子、石村　珠美
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業目的	多くの人は、病気や障がいを抱えても住み慣れた地域や自宅で暮らし続けたいという希望を持っている。在宅看護では、療養者のニーズにこたえ、支援することが求められており、近年その役割は増大している。 そこで本科目では、対象となる在宅療養者や家族を理解し、在宅看護の目的と理念、看護職の役割・機能、そしてともに対象を支援する関係機関や職種、社会資源を学習する。また、在宅療養者に対する看護過程の展開方法を学習する。		
到達目標	1. 在宅療養者と家族が暮らす地域社会の現状を理解する 2. 在宅看護の理念と目的、特徴を学び、看護職者の役割・機能を理解する 3. 在宅看護の対象となる療養者と家族を理解する 4. 在宅療養者と家族を支援する関係機関・職種、社会資源を理解する 5. 地域包括ケアシステム、制度・政策を理解する 6. 在宅療養者と家族に対する看護過程の展開方法を理解する		
テキスト	1. 秋山正子「系統看護学講座統合分野　在宅看護論」（医学書院） 2. 正野逸子・本田彰子「関連図で理解する　在宅看護過程」（メヂカルフレンド社）		
参考書	1. 臺有桂他編「ナーシング・グラフィカ　在宅看護論①地域療養を支えるケア」（メディカ出版） 2. 臺有桂他編「ナーシング・グラフィカ　在宅看護論②在宅療養を支えるケア」（メディカ出版） 3. 宇都宮宏子他編「看護がつながる在宅療養移行支援」（日本看護協会出版会）		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	目標の到達状況を下記の視点から評価し 60 点以上を合格とする。 ①課題レポート（20 点）：講義をふまえて「在宅看護の役割」「在宅看護において必要な態度やコミュニケーション」に関する考えを記述する。 ②定期試験（80 点）：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。
	レポート	20%	
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	・本科目では、「疾病や障がいを抱え、在宅で暮らし続けている生活者」の視点でこれまでの履修科目と関連付けながら履修すること ・レポートは学習の手引きに沿って書くこと
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、現場での事例などを講義に織り交ぜながら、在宅看護について理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（針金）	学習の主題	ガイダンス 在宅看護の目的、QOL を考えた在宅看護
		授業内容	本科目の学習目的・目標および学習内容と方法・評価方法と基準、履修上の留意事項、テキスト等を説明する 在宅看護の目指すもの、提供される場、QOL、生活している地域を理解する
		事前・事後学習	事前：シラバスを読み、履修上の課題を明らかにしておく 事後：講義を振り返り、学びを深める
	2（針金）	学習の主題	在宅看護の対象者の理解
		授業内容	家族や住まい、住み方を視野に入れた支援 1.「生活者」の視点から在宅療養者を捉える 2. 在宅療養者の特徴（年齢・疾患・障がいなど）を理解する 3. ICF について理解する
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読む 事後学習：在宅看護の対象者の特徴について学びを深める
	3（針金）	学習の主題	在宅看護対象者としての家族
		授業内容	1. システム理論を用いて在宅看護の対象者としての家族の捉え方を理解する 2. 在宅看護の対象者としての家族支援の視点を理解する
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読み「家族とは」について考えておく 事後学習：「家族支援」の特徴について学びを深める

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4 （石村）	学習の主題	在宅看護に求められている看護師の役割と機能
		授業内容	在宅看護に求められる看護師の役割と機能を以下の視点から考える ・地域包括ケアケアシステム　　・訪問看護の重要性
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読む 事後学習：「在宅看護の役割」についてレポートを提出する（A4 用紙 1 枚 1500 字程度）
	5 （石村）	学習の主題	在宅療養の支援
		授業内容	1. 在宅療養の提供の場とそれぞれの特徴 2. 入退院・入退所など、療養の場の移行時における看護師が行う支援
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読み、在宅療養の場について理解しておく 事後学習：それぞれの場における看護師の役割の特徴について学びを深める
	6 （針金）	学習の主題	在宅療養に関わる法令・制度とその活用
		授業内容	1. 在宅看護に関わる法令の変遷と歴史的背景 2. 在宅看護の法的根拠 3. 訪問看護制度とサービス提供の具体的内容
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読み、各法令について学習をしておく 事後学習：在宅看護に関わる法令・制度について学びを深める
	7 （針金）	学習の主題	在宅療養者と家族を支える社会保障制度
		授業内容	1. 在宅療養者を支える社会保障制度 2. 訪問看護サービスとケアマネジメントにおける社会資源の活用 3. 多職種連携の必要性
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読み、訪問看護制度、ケアマネジメントについて学習しておく 事後学習：訪問看護制度、ケアマネジメントについて学びを深める
	8 （石村）	学習の主題	在宅看護過程の特徴
		授業内容	在宅看護過程の特徴を以下の視点で理解する ・病院で行われる看護との違い　　・対象者の生活や価値観の多様性
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読む 事後学習：在宅看護過程の特徴について学びを深める
	9 （石村）	学習の主題	在宅療養上のリスクマネジメント、権利保障
		授業内容	在宅看護におけるリスクマネジメントの特徴を以下の視点から理解する ・個人の尊厳や自己決定　　・個人情報開示　　・成年後見、虐待防止 ・災害時の訪問看護の役割と心構え
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読む 事後学習：在宅で注意すべきリスクおよび権利保障について学びを深める
	10 （石村）	学習の主題	在宅看護介入時期別の特徴
		授業内容	在宅看護介入時期の理解 ・在宅療養準備期　・在宅療養移行期　・在宅療養安定期　・急性増悪期 ・終末期（看取り期）　・在宅療養終了期
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読む 事後学習：講義を振り返り、学びを深める
	11 （石村）	学習の主題	信頼関係の構築、コミュニケーションと態度、在宅看護における倫理的課題
		授業内容	1. 信頼関係が築かれるコミュニケーション技術のポイント 2. 訪問看護において必要な態度 3. 在宅看護における倫理的課題
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読み、コミュニケーションについて復習する 事後学習：「在宅看護において必要な態度やコミュニケーション」についてレポートを提出する（A4 用紙 1 枚　1500 字程度）
	12 （石村）	学習の主題	終末期の療養者に対する看護
		授業内容	在宅看護の看護展開（終末期前期、安定期、終末期・臨死期、死亡直後）と看護の特徴
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読む 事後学習：講義を振り返り、学びを深める

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	13 （石村）	学習の主題	在宅看護過程の展開方法①
		授業内容	1. 在宅看護過程の基本構造とアセスメントの枠組み 2. アセスメント項目と情報整理の方法
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読む（「在宅看護過程」メヂカルフレンド社） 事後学習：講義を振り返り、学びを深める
	14 （石村）	学習の主題	在宅看護過程の展開方法②
		授業内容	アセスメントの結果の構造化による課題の抽出方法や目標設定方法
		事前・事後学習	事前学習：テキストの事例展開を読む 事後学習：講義を振り返り、学びを深める
	15 （石村）	学習の主題	在宅看護過程の展開方法③
		授業内容	計画立案（具体策の特徴）と評価方法
		事前・事後学習	事前学習：テキストの事例展開を読む 事後学習：講義を振り返り、学びを深める

授業科目	在宅看護論Ⅱ Home Care Nursing Ⅱ	担当教員	石村　珠美、針金　佳代子、他
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業目的	本科目では、在宅看護論Ⅰで学んだ内容をもとに、在宅療養者の日常生活を「生活行為」として総合的な視点で捉え、在宅看護を展開する知識・態度・技術を学ぶ。		
到達目標	1. 在宅療養者と家族への基本的生活援助技術を理解できる 2. 在宅で行われる医療処置技術について理解できる 3. 在宅療養者とその家族の特性を踏まえた在宅看護の方法・技術について理解できる 4. 在宅療養者と家族の健康状態をアセスメントし、課題を説明できる 5. 在宅看護の計画を評価の視点も含めて立案することができる 6. 在宅療養者とその家族を共に支援する他機関や他職種との連携について考えることができる		
テキスト	1. 秋山正子「系統看護学講座統合分野　在宅看護論」（医学書院） 2. 正野逸子・本田彰子「関連図で理解する　在宅看護過程」（メヂカルフレンド社）		
参考書	1. 臺有桂他編「ナーシング・グラフィカ　在宅看護論①地域療養を支えるケア」（メディカ出版） 2. 臺有桂他編「ナーシング・グラフィカ　在宅看護論②在宅療養を支えるケア」（メディカ出版） 3. 河野あゆみ編「強みと弱みからみた　在宅看護過程」（医学書院）		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	目標の到達状況を下記の視点から評価し 60 点以上を合格とする。 ①看護過程演習（30 点）：到達目標で決める提出物によって評価する ②課題レポート（10 点）：ゲストスピーカーの講義を受けた内容に基づき学びを記述する。 ③定期試験（60 点）：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。
	レポート	10%	
	小テスト		
	提出物	30%	
	その他		

履修上の留意事項	・在宅看護論Ⅰおよびこれまで学んだ看護技術を復習すること ・グループワークに積極的に参加すること ・レポートは学習の手引きに沿って書くこと
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、現場での事例などを講義に織り交ぜながら、在宅看護について理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（石村）	学習の主題	ガイダンス 対象の特性に応じた看護 ① 要介護高齢の看護
		授業内容	・本科目の学習目的・目標および学習内容と方法・評価方法と基準、履修上の留意事項、テキスト、演習の進め方、課題等を説明する ・糖尿病、高血圧症を抱える要介護高齢者とその家族の特性と看護を学ぶ
		事前・事後学習	事前学習：シラバスを読み、履修上の課題を明らかにしておく 事後学習：講義内容を復習する
	2（石村）	学習の主題	対象の特性に応じた看護 ② 認知症、精神疾患の療養者の看護
		授業内容	認知症、精神疾患の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	3（石村）	学習の主題	対象の特性に応じた看護 ③ 脳血管疾患、脳神経疾患の療養者の看護
		授業内容	脳血管疾患、パーキンソン病の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	4（石村）	学習の主題	対象の特性に応じた看護 ④ 在宅酸素療法を必要とする療養者の看護、小児の療養者の看護
		授業内容	COPD の療養者、小児の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	5 （石村）	学習の主題	対象の特性に応じた看護 ⑤ 神経難病の療養者の看護
		授業内容	ALS の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	6 （石村）	学習の主題	対象の特性に応じた看護 ⑥ 終末期の療養者の看護
		授業内容	終末期の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	7-8 （針金） （石村） 他	学習の主題	医療管理を要する療養者の看護とリハビリテーション①②
		授業内容	在宅療養者を支える実践者（ゲストスピーカー）から講義を受け、在宅看護技術を学ぶ 1. 在宅における皮膚・排泄ケア（褥瘡創傷ケア、人工肛門、人工膀胱、膀胱留置カテーテル） 2. 在宅におけるリハビリテーション
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでおく 事後学習：「ゲストスピーカーの講義を受けての学び」についてレポートを提出する（それぞれ A4　1 枚 1500 字程度）
	9-12 （針金） （石村） 他	学習の主題	在宅における看護過程の展開①②③④
		授業内容	グループワーク（4 名～ 5 名）を実施する 1. 学生個々に取り組んだアセスメントを持ち寄り、グループ内で共有し、全体像と対象理解を共有する 2. 学生個々に作成した看護計画の内容を共有し、訪問時の看護計画を立案する 3. 訪問時の看護計画から一場面を設定したロールプレイを考える
		事前・事後学習	事前学習：個人で考えた看護過程をメンバーに伝えられるように準備しておく 事後学習：演習の内容を深めておく
	13-14 （針金） （石村） 他	学習の主題	在宅における看護過程の展開⑤⑥
		授業内容	訪問時の看護計画を発表し、ロールプレイを実施する 1. 訪問時の看護計画を発表する 2. 訪問時の看護計画に沿ってロールプレイを実施する 3. 発表とロールプレイを振り返る
		事前・事後学習	事前学習：発表準備を行う 事後学習：個人で演習のまとめを行う
	15 （針金） （石村） 他	学習の主題	在宅における看護過程の展開⑦ まとめ
		授業内容	1. 在宅における看護過程の展開から学んだことをグループで振り返る 2. 在宅看護論 II のまとめ
		事前・事後学習	事前学習：他のグループの発表をふまえ、自己の学びをまとめる 事後学習：グループワークや発表での学びを活かし、事例に関するアセスメント・関連図・看護計画を追加・修正し、提出する

授業科目	医療安全論 Patient Safety & Disaster Nursing	担当教員	相馬　幸恵、福岡　啓子、葛西　陽子
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業目的	医療・看護における「安全」の基本的な考え方を理解し、リスクに対する感受性と判断力を磨き、看護の質と医療安全の関連について考える。特に、看護専門職としての責務、医療安全の基本的な考え方、医療安全と看護の質、患者の安全対策、感染防止、事故防止等について理解を深める。また、災害に関する基本的知識を学び、災害サイクル各期における看護について理解する。		
到達目標	1. 医療安全を学ぶことの意義を理解する。 2. 医療安全の重要性と医療安全のためのシステムについて理解する。 3. 医療事故に伴う看護職の法的問題について理解する。 4. 医療事故のメカニズムを理解する。 5. 起こりやすい医療事故とその対策について考察することができる。 6. 医療安全管理と医療の質、看護の質との関連について理解する。 7. 感染によるリスクと感染防止対策について理解する。 8. 災害に関する基本的知識を学習し、災害時における看護の役割と機能について理解する。		
テキスト	小林美亜編集「医療安全　患者の安全を守る看護の基礎力・臨床力（改訂第 2 版）」（学研メディカル秀潤社）		
参考書	1. 松下由美子他編集「ナーシンググラフィカ　看護の統合と実践②　医療安全」（メディカ出版） 2. 川村治子「系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践 2 医療安全」（医学書院） 3. 川村治子「医療安全ワークブック（第 4 版）」（医学書院） 4. 山内豊明他編集「医療安全　多職種でつくる患者安全をめざして」（南江堂） 5. 河野龍太郎「医療におけるヒューマンエラー―なぜ間違える　どう防ぐ―」（医学書院） 6. 坂本史衣「基礎から学ぶ医療関連感染対策標準予防からサーベイランスまで　改訂第 3 版」（南江堂） 7. 満田年宏「ナースのための院内感染対策 CDC ガイドラインを中心に考える基本と実践―」（照林社） 8. 酒井明子　菊池志津子編集「災害看護」（南江堂） 9. 黒田裕子　酒井明子監修「新版災害看護―人間の生命と生活を守る」（メディカ出版） 10. 小原真理子監修「いのちとこころを救う災害看護」（学習研究社）		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	相馬 50%　福岡 25%　葛西 25% 目標到達状況を定期試験（筆記試験）により評価し、60 点以上を合格とする。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	授業内容の範囲が広いので、テキスト・参考文献で事前・事後学習をしっかりしておきましょう。
実務経験を活かした教育内容	本科目担当教員が従事した臨床看護に関する実務経験に基づき、現場での事例、医療安全・感染対策、災害看護の取り組みなどを講義に織り交ぜながら、理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（相馬）	学習の主題	ガイダンス、医療安全を学ぶ意義と医療安全の動向
		授業内容	1. 本科目の目的・目標、学習内容と方法、評価方法、テキスト、参考書 2. 医療安全にかかわる基本概念 1）医療安全を学ぶ意義 2）医療安全に関わる動向 3）医療安全に関する用語の定義 3. 医療安全のためのシステムと国や団体の取り組み 4. 医療安全管理と医療（看護）の質の評価
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分について熟読する。 事後学習：学習主題を復習しノートを整理する。
	2（相馬）	学習の主題	医療事故における法的責任
		授業内容	1. 医療事故に伴う看護職の法的責任 2. 看護倫理と医療安全
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分について熟読する。 事後学習：学習主題を復習しノートを整理する。

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	3 （相馬）	学習の主題	医療事故のメカニズムと事故防止
		授業内容	1．医療事故発生のメカニズム 　1）ヒューマンエラー　2）人間特性　3）環境 2．事故分析と事故対策
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分について熟読する。 事後学習：事前学習に講義内容を追加し、整理する。
	4 （相馬）	学習の主題	病院組織における医療安全対策
		授業内容	1．病院組織における医療安全対策の実際 　1）誤薬　2）医療機器・医療用具のトラブル 2．チーム医療からみる医療事故とその対策
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分について熟読する。 事後学習：医療安全についてのこれまでの学習のノート整理をする。
	5 （相馬）	学習の主題	起こりやすい医療事故の特徴とその対策①
		授業内容	1．転倒・転落 2．患者誤認
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分について熟読し、起こりやすい事故とその原因について学習する。 事後学習：学習主題を復習しノートを整理する。
	6 （相馬）	学習の主題	起こりやすい医療事故の特徴とその対策②
		授業内容	1．食事・栄養 2．チューブ・カテーテル類のトラブル
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分について熟読し、起こりやすい事故とその原因について学習する。 事後学習：学習主題を復習しノートを整理する。
	7 （相馬）	学習の主題	起こりやすい医療事故の特徴とその対策③
		授業内容	1．皮膚障害 2．個人情報の取り扱い 3．患者からの暴力
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分について熟読し、起こりやすい事故とその原因について学習する。 事後学習：学習主題を復習しノートを整理する。
	8 （福岡）	学習の主題	感染管理の授業ガイダンス、感染の基礎知識
		授業内容	1．感染管理の授業を進めるにあたって ・学習目標・内容・方法等について 2．感染に関する基礎的知識について ・感染とは ・医療関連感染について ・医療関連感染コントロールが難しくなった背景 ＊学生の事前学習に対する質問をしながら進める。
		事前・事後学習	事前学習：感染免疫学で学んだことを復習してくる。
	9 （福岡）	学習の主題	感染防止①
		授業内容	1．スタンダードプリコーションと感染経路別予防策 ・CDC ガイドラインによる感染経路別予防策 ・スタンダードプリコーションについて ・スタンダードプリコーションのねらい ・スタンダードプリコーションの実際 2．接触感染予防策 3．飛沫感染予防策 4．職業感染防止
		事前・事後学習	事前学習：感染防止策としてのスタンダードプリコーションについてノートに整理する。 事後学習：事前学習に講義内容を追加・修正してまとめる。

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	10 （福岡）	学習の主題	感染防止② 感染予防策
		授業内容	1. 処置・ケア時の感染防止 ・患者環境　・皮膚・粘膜のケア 2. 血流感染防止 ・血流感染とは　・血流感染の経路と要因　・血流感染のリスク因子 ・感染防止策 3. 尿路感染防止 ・尿路感染とは　・感染防止策 4. 院内感染肺炎防止 ・院内感染肺炎の病態生理と危険因子　・感染防止策 5. 手術部位感染防止 ・手術部位感染とは　・手術部位感染のリスク　・感染防止策
		事前・事後学習	事前学習：感染の種類とその要因及びそれぞれの感染防止策についてノートに整理する。 事後学習：事前学習のノートに授業内容を追加・修正しながら、理解を深める。
	11 （福岡）	学習の主題	感染に関する法的事項、認定看護師（感染管理）の役割
		授業内容	1. 感染症法について ・歴史的変遷　・基本理念、基本方針等　・法律の内容について 2. 認定看護師（感染管理）の役割と機能 3. 認定看護師が行う感染管理の実際
		事前・事後学習	事前学習：感染症法について参考書を参考にしてまとめる。認定看護師の役割と機能についてこれまでの学習から予習する。 事後学習：医療における感染によるリスクとその感染予防策と感染管理における看護師の役割について指定用紙にレポートする。
	12 （葛西）	学習の主題	災害看護の授業ガイダンス、災害看護の歴史的背景、災害と災害医療・災害看護に関する基礎知識
		授業内容	1. 災害看護の授業を進めるにあたって - 学習目標・内容・方法等について 2. 災害看護の歴史的背景 3. 災害・災害看護の定義 4. 災害の種類による疾病構造の特徴 5. 災害サイクル各期における特徴
		事前・事後学習	事前学習：シラバスを読んで、授業の構造をイメージし、災害看護に対する疑問を明らかにする。 事後学習：授業を想起し、災害の構造について理解を深める。
	13 （葛西）	学習の主題	災害時の看護活動の実際と実践に必要な知識
		授業内容	1. 国内外における災害関係機関（行政及び諸機関）の役割・支援体制 2. 災害時要援護者への看護 3. 災害が及ぼす被災者・援助者への心理的影響とこころのケア 4. 災害時に必要な技術 ・トリアージ法
		事前・事後学習	事前学習：災害サイクル各期の看護活動の特徴と看護の役割について、自身の思考を整理し、疑問を明らかにする。 事後学習：疑問が明らかにできたか、授業で学んだことを整理する。
	14 （葛西）	学習の主題	災害への備え
		授業内容	1. 災害時への備え 2. 初動体制 3. 災害訓練 4. 避難所運営
		事前・事後学習	事前学習：災害発生を想定し、事前に考えられる準備について学習する。 事後学習：講義・演習内容から、災害の影響を少なくするために必要な準備について学んだことを整理する。
	15 （葛西）	学習の主題	まとめ
		授業内容	1. 災害看護の歴史的背景、災害と災害医療・災害看護に関する基礎知識 2. 災害時の看護活動の実際と実践に必要な知識 3. 災害への備え
		事前・事後学習	事後学習：災害看護の重要性と災害時に看護職が果たす役割について学んだことを整理する。

授業科目	看護学研究法 Research Methods in Nursing	担当教員	木津　由美子、末光　厚夫、吉田　祐子
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業目的	看護学の研究の意義・目的、研究過程の概観、研究方法、研究論文の書き方、発表等に関する基礎知識を習得し、看護課題研究で活用できることを目的とする。研究を進めるにあたって必要とされる文献検索の方法や活用方法、研究論文の読み方、帰納的、演繹的推論や研究課題にマッチした研究デザイン、データ収集方法と分析方法について理解するとともに、看護研究における倫理について理解する。また、研究計画書の意義と作成方法について学習する。		
到達目標	1. 看護学の研究の意義と目的を理解できる。 2. 文献検索の方法および論文をクリティークする視点が理解できる。 3. 帰納的、演繹的推論や研究課題にマッチした研究デザインと研究の種類について理解できる。 4. 看護研究を進めるにあたって研究者に求められる倫理について理解できる。 5. 量的研究・質的研究の種類と進め方を理解できる。 6. 量的研究で用いられる統計について理解できる。 7. 研究計画書の意義と作成の過程を理解できる。 8. 研究成果のまとめ方および公表する意義について理解できる。		
テキスト	1. 桂 敏樹他「かんたん看護研究」（南江堂）		
参考書	1. 黒田裕子「黒田裕子の看護研究 step by step」（医学書院） 2. 谷津裕子「Start Up 質的看護研究」（学研メディカル秀潤社） 3. 横川博英（監）藤林和俊「看護研究をはじめるための統計と臨床疫学―研究デザインから検定方法の理解に役立つ」（学研メディカル秀潤社） 4. 李 節子「看護研究こころえ帳 -- 研究の基本からプレゼンテーションまで」（医歯薬出版）		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70%	課題（研究計画書・文献クリティークの成果）などの提出物を 30%、定期試験を 70%で総合して評価をします。なお定期試験を自己都合による理由で欠席した場合は評価の対象になりません。詳細については初回で説明をします。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	30%	
	その他		

履修上の留意事項	4 年次の「看護課題研究」につながる科目です。基本をしっかり学んでください。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（木津）	学習の主題	ガイダンス 研究とは何か
		授業内容	・本科目の目的、目標、内容、履修展開、評価について理解する。 ・研究とは何か　看護研究の意義と目的、その過程を理解する。
		事前・事後学習	事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく。
	2（木津）	学習の主題	研究過程の概観、研究デザインと研究方法
		授業内容	・演繹的推論と帰納的推論を理解する。 ・研究デザインに沿った研究方法について理解する。
		事前・事後学習	事後学習：配布資料を読み授業内容を整理する。
	3（木津）	学習の主題	研究倫理
		授業内容	・研究における倫理的配慮の原則を理解する。
		事前・事後学習	事後学習：看護研究を倫理的に進めるために必要な視点を整理する。
	4（木津他）	学習の主題	文献検索と文献検討①
		授業内容	・文献検討の意義を理解する。 ・文献をクリティークする視点を理解する。
		事前・事後学習	事後学習：配布資料を読み授業内容を整理する。

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	5 （木津他）	学習の主題	文献検索と文献検討②
		授業内容	・文献検索の方法について理解する。 ・文献を入手する方法を理解する。
		事前・事後学習	事前学習：興味・関心のある研究テーマを考えておく。 事後学習：興味・関心のある研究テーマについて検索し、文献を取り寄せる。文献カードを作成する。
	6 （末光）	学習の主題	研究と統計
		授業内容	・研究に用いられる統計の基本を理解する。
		事前・事後学習	事後学習：配布資料を読み直し、授業内容を復習する。
	7 （木津）	学習の主題	量的研究法①
		授業内容	・量的研究法の種類と方法の概要を理解する。 ・概念枠組みについて理解する。
		事前・事後学習	事後学習：配布資料を読み授業内容を整理する。
	8 （木津）	学習の主題	量的研究法②
		授業内容	・質問紙法の手順と実際を理解する。 ・使用する尺度の妥当性と信頼性、標準化について理解する。 ・介入研究の手順と実際を理解する。
		事前・事後学習	事後学習：配布資料を読み授業内容を整理する。
	9 （木津）	学習の主題	量的研究法③
		授業内容	・量的研究論文を既習のクリーティークの視点から読み理解する。
		事前・事後学習	事後学習：量的研究論文をクリティークする。
	10 （木津）	学習の主題	質的研究法①
		授業内容	・質的研究とは何かを理解する。 ・質的研究の特徴と種類について理解する。
		事前・事後学習	事後学習：講義内容を復習し、量的研究と質的研究の違いを整理する。
	11 （木津）	学習の主題	質的研究法②
		授業内容	・質的研究におけるデータ収集と分析方法を理解する。
		事前・事後学習	事後学習：講義時に配付する質的研究論文を読んでおく。
	12 （木津）	学習の主題	質的研究法③
		授業内容	・質的研究論文を既習のクリティークの視点から読み理解する。
		事前・事後学習	事後学習：講義内容を復習し、質的研究論文をクリティークする。
	13 （木津） （吉田）	学習の主題	研究計画書作成①
		授業内容	・研究計画書作成の意義と構成について理解する。
		事前・事後学習	事後学習：配布資料を読み授業内容を整理する。
	14 （木津） （吉田）	学習の主題	研究計画書作成②
		授業内容	・研究計画書の作成過程の実際を理解する。
		事前・事後学習	事後学習：配布資料を読み授業内容を整理する。
	15 （木津）	学習の主題	研究成果の発表 看護課題研究のテーマについて
		授業内容	・研究成果を発表する方法について理解する。 ・研究論文の構成と論文作成時の留意事項を理解する。 ・自らの研究テーマについて考える。
		事前・事後学習	事後学習：自らの研究テーマを明らかにし、課題シートを作成する

授業科目	看護管理論 Nursing Management	担当教員	相馬　幸恵、浪岡　まさみ
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位
授業目的	看護におけるマネジメントの概念、看護サービスのマネジメントの概念について学び、看護組織を運営していくために必要な考え方を理解する。また、質の高い看護サービスを提供するための看護管理のあり方、多様な看護実践の場における看護マネジメントの実際を学ぶ。		
到達目標	1．看護管理の概念、看護を取り巻く諸制度について理解する。 2．看護サービスのマネジメントの概念について理解する。 3．マネジメントに必要な知識と技術について理解する。 4．多様な看護実践の場における看護マネジメントのあり方について理解する。		
テキスト	上泉和子「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 1 看護管理（第 10 版）」（医学書院）		
参考書	小林美亜編集「看護学テキスト　統合と実践　看護管理」（学研メディカル秀潤社） 手島恵・藤本幸三編集「看護管理学　自律し協働する専門職の看護マネジメントスキル（改訂第 2 版）」（南江堂）		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	相馬 60%　浪岡 40% 目標到達状況を定期試験（筆記試験）により評価し、60 点以上を合格とする。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	看護管理は、既習の授業すべてに関連があります。これまでの学修を振り返り授業に臨んでください。
実務経験を活かした教育内容	本科目担当教員が従事した看護管理に関する実務経験に基づき、現場での事例などを講義に織り交ぜながら、理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（相馬）	学習の主題	ガイダンス、看護管理の概念
		授業内容	1. ガイダンス 2. 看護におけるマネジメントの概念と変遷 1）マネジメントとは 2）マネジメントプロセス 3）マネジメントの変遷
		事前・事後学習	事前学習：シラバスを読み、これまでに学んだことからこの授業内容についての疑問点を明らかにしておく。テキストの該当部分を読み、予習する。 事後学習：授業内容をノートに整理する。
	2（相馬）	学習の主題	看護を取り巻く諸制度、政策
		授業内容	1. 看護職と法制度 2. 看護職の教育制度 3. 医療制度
		事前・事後学習	事前学習：看護職に関連する法律および医療制度について、これまで学んだ授業科目の内容、テキストの該当部分から整理する。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する。
	3（相馬）	学習の主題	看護組織論
		授業内容	1. 組織構造・理念と組織図 2. 看護組織 3. 協働と連携（チーム医療）
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する。

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4 （相馬）	学習の主題	看護サービスのマネジメント①：サービス提供論
		授業内容	1. サービスとは 2. サービスの質 3. サービス提供体制 4. サー ビスの評価・認証
		事前・事後学習	事前学習：看護サービスのマネジメントについて、テキストの該当部分を読み、予習する。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する。
	5 （相馬）	学習の主題	看護サービスのマネジメント②：情報・リスク管理
		授業内容	1. 情報マネジメント 2. 安全管理
		事前・事後学習	事前学習：医療安全の講義を復習する。また、テキストの該当部分を読み、情報・リスク管理についてまとめておく。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する。
	6 （浪岡）	学習の主題	人的資源活用論①
		授業内容	1. モチベーション 2. ストレスマネジメント 3. 労務管理・ワークライフバランス
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する。 事後学習：事前学習に授業内容を追加整理する。
	7 （浪岡）	学習の主題	人的資源活用論②
		授業内容	1. 継続教育 2. 目標管理 3. キャリア開発
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する。 事後学習：事前学習に授業内容を追加整理する。
	8 （浪岡）	学習の主題	リーダーシップ論
		授業内容	1. リーダーシップとメンバーシップ 2. 看護管理者の役割
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する。

授業科目	公衆衛生看護学概論 Introduction to Public Health Nursing	担当教員	近藤　明代
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位
授業目的	公衆衛生看護の概要と社会的機能、活動目的・理念、対象や展開方法の特性を理解する		
到達目標	1. 公衆衛生看護の発生と発展過程を学び、公衆衛生看護の社会的機能を理解する。 2. 公衆衛生看護の定義、目的、役割、理念について理解する。 3. 公衆衛生看護の対象特性を理解する。 4. 公衆衛生看護の展開方法の特性を理解する。		
テキスト	1. 標美奈子著者代表「標準保健師講座 1　公衆衛生看護学概論」（医学書院） 2. 医療情報科学研究所編集「公衆衛生がみえる」（メディックメディア）		
参考書	1. 大国美智子「保健婦の歴史」（医学書院） 2. リリアン・ウォルド「ヘンリー・ストリートの家」（日本看護協会出版会） 3. 木下安子「近代日本看護史」（メヂカルフレンド社） その他授業に必要な文献は、その都度配布する。		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	公衆衛生看護の概要と社会的機能、活動目的、理念、対象や展開方法の特性に関する定期試験（筆記試験）を実施し、目標の到達度を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	・毎回、シラバスの「学習の主題」「授業内容」を念頭に置きながら授業内容を理解する。 ・授業中または授業終了後に生じた疑問の解決は先延ばしせずに、その場あるいは授業終了後に担当教員に質問してください。
実務経験を活かした教育内容	保健師として公衆衛生看護活動を実施してきた実務経験者の立場から、実際の活動事例も紹介しながら本科目の目標である公衆衛生看護学の基本となる考え方を伝えます。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	公衆衛生看護の概念/定義、社会的機能/役割，活動の場
		授業内容	本科目の目的・目標、授業内容と、評価方法、履修上の留意点について説明する。 公衆衛生看護の概念/定義、社会的機能/役割、活動の場について講義する。
		事前・事後学習	事後学習：教科書、授業で使用したプリントをもとに、学習内容を復習する
	2	学習の主題	公衆衛生看護活動の理念と活動理論
		授業内容	公衆衛生看護の理念 公衆衛生・公衆衛生看護の発展過程と諸理論
		事前・事後学習	事後学習：教科書、授業で使用したプリントをもとに、学習内容を復習する
	3	学習の主題	公衆衛生看護の対象特性
		授業内容	公衆衛生看護の対象特性
		事前・事後学習	事後学習：教科書、授業で使用したプリントをもとに、学習内容を復習する
	4	学習の主題	公衆衛生看護の歴史
		授業内容	公衆衛生看護の発生と発展過程
		事前・事後学習	事後学習：教科書、授業で使用したプリントをもとに、学習内容を復習する
	5	学習の主題	公衆衛生看護展開方法の特性①
		授業内容	公衆衛生看護展開方法の全体像 地域社会を対象とする看護過程
		事前・事後学習	事後学習：教科書、授業で使用したプリントをもとに、学習内容を復習する
	6	学習の主題	公衆衛生看護展開方法の特性②
		授業内容	個人・家族・グループ・地域組織の健康課題への介入方法
		事前・事後学習	事後学習：教科書、授業で使用したプリントをもとに、学習内容を復習する

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	7	学習の主題	公衆衛生看護展開方法の特性③
		授業内容	地区担当・業務担当 「地域における保健師の保健活動に関する指針」 （平成 25 年 4 月 19 日付 健発 0419 第 1 号）について
		事前・事後学習	事後学習：教科書、授業で使用したプリントをもとに、学習内容を復習する
	8	学習の主題	公衆衛生看護展開方法の特性④
		授業内容	関係機関・関係職種・地域資源との連携と地域システム構築
		事前・事後学習	事後学習：教科書、授業で使用したプリントをもとに、学習内容を復習する

授業科目	公衆衛生看護活動論Ⅰ Public Health Nursing　Ⅰ	担当教員	安藤　陽子、近藤　明代、小川　克子
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業目的	地域で生活する個人・家族の健康の維持増進・疾病の予防と回復に向けた支援方法（健康相談、家庭訪問、健康診査、健康教育、グループ支援）を理解し、各方法を展開するための基礎的能力を習得する。		
到達目標	1. 公衆衛生看護で用いられる支援方法の全体構造を理解する。 2. 個人・家族の健康問題解決・課題達成のために用いられる支援方法（健康相談、家庭訪問、健康診査、健康教育、グループ支援）の特徴、内容を理解する。 3. 健康相談、家庭訪問、健康教育、グループ支援を展開する基礎的能力を習得する。		
テキスト	1. 中村裕美子編「標準保健師講座 2　公衆衛生看護技術」（医学書院） 2. 村嶋幸代編「最新保健学講座 2　公衆衛生看護支援技術」（メヂカルフレンド社）		
参考書	1. 宮坂忠夫／川田智恵子／吉田亨編著「最新保健学講座別巻 1　健康教育論」（メヂカルフレンド社） その他は講義の時に必要な参考文献を紹介する。		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70%	・定期試験（70 点）：到達目標に関する定期試験（筆記試験）によって、目標の到達度を評価する。 ・家庭訪問演習（15 点）：保健師が実施する家庭訪問による支援方法について、①家族アセスメント②家庭訪問計画立案、③家族の主体性を促す関わりの視点で評価する。 ・健康教育演習（15 点）：保健師が実施する小集団を対象とした健康教育の特徴を踏まえた支援方法について、①地域特性を踏まえた集団のアセスメント②健康教育事業の立案③住民自らが健康を管理するための集団への支援方法の視点で評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	30%	
	その他		

履修上の留意事項	・授業で学んだ内容は、教科書や参考文献を活用して学びを深めてください。 ・授業中または授業終了後に生じた疑問はその都度解決できるよう主体的な行動を心がけてください。
実務経験を活かした教育内容	・地域での保健師活動の実務経験に基づき、公衆衛生看護場面で用いる支援方法について授業を行います。 ・地域での事例などを基にした演習を実施し、支援方法の実際をイメージ化できるように授業を展開します。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（安藤）	学習の主題	公衆衛生看護で用いられる支援方法の全体構造と特徴／公衆衛生看護における健康相談の概念、目的、対象、展開方法、特徴、留意点
		授業内容	1. 個人・家族・小集団を対象とした健康問題の解決・課題達成のための支援方法の意義を学ぶ。 2. 公衆衛生看護における健康相談の概念、目的、対象を学ぶ。 3. 公衆衛生看護における健康相談の位置づけ、展開方法、特徴、留意点を学ぶ。
		事前・事後学習	事前学習：公衆衛生看護概論で学んだ公衆衛生看護展開方法の特性について復習し受講する。 事後学習：教科書や参考文献を活用しながら、学習した内容を深める。
	2（安藤）	学習の主題	健康診査・検診の目的、種類、対象、方法、留意点
		授業内容	公衆衛生看護における健康診査・検診の目的、種類、対象、方法、留意点について学ぶ。
		事前・事後学習	事後学習：教科書や参考文献を活用しながら、学習した内容を深める。
	3-4（安藤）	学習の主題	公衆衛生看護における家庭訪問の目的、対象、機能、特徴、展開方法、留意点
		授業内容	1. 公衆衛生看護における家庭訪問の目的を学ぶ。 2. 公衆衛生看護における家庭訪問の対象、機能、特徴を学ぶ。 3. 公衆衛生看護における家庭訪問の位置づけ、留意点を学ぶ。 4. 公衆衛生看護における家庭訪問の展開方法について学ぶ。
		事前・事後学習	事前学習：家族看護論で学習した内容を復習して準備を行う。 事後学習：教科書や参考文献を活用しながら、学習した内容を深める。

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	5-6 （安藤） （小川）	学習の主題	家庭訪問の展開方法を学ぶ。
		授業内容	1. 提示された事例をアセスメントし、健康課題を明確化する。 2. 対象への支援目標を立てる。 3. 家族を一単位とした支援計画を立案し、評価方法を検討する。 4. 家庭訪問の演習（ロールプレイ）の準備を行う。
		事前・事後学習	作成した家庭訪問の計画は、ロールプレイ終了後に提出する。
	7-8 （安藤） （小川） （近藤）	学習の主題	家庭訪問の展開方法を学ぶ。
		授業内容	1. 訪問対象役と保健師役、ロールプレイ観察役を設定し演じる。 2. 家庭訪問場面を評価し、次回計画を検討する。 3. ロールプレイの体験から家庭訪問の留意点を学ぶ。
		事前・事後学習	実際に家庭訪問のロールプレイを体験し、対象者の反応から自身が実施した支援を評価し提出する。
	9-10 （小川）	学習の主題	公衆衛生看護における健康教育の目的、対象、展開方法、特徴、留意点
		授業内容	1. 公衆衛生看護における健康教育の目的、対象、特徴、留意点を学ぶ。 2. 健康教育の企画・実施・評価について学ぶ。
		事前・事後学習	健康教育論で学習した内容を復習して受講する。
	11-13 （小川） （安藤）	学習の主題	健康教育の展開方法を学ぶ。
		授業内容	1. 提示された小集団をアセスメントし、健康課題を明確化する。 2. 小集団への支援目標を立てる。 3. 小集団への支援計画を立案し、評価方法を検討する。 4. 健康教育で使用する教育媒体を作成する。 5. 健康教育の展開（ロールプレイ）の準備を行う。
		事前・事後学習	健康教育論で学習した内容を復習して準備を行う。 立案した支援計画は、ロールプレイ終了後に提出する。
	14-15 （小川） （安藤） （近藤）	学習の主題	健康教育の展開方法を学ぶ。
		授業内容	1. 対象集団のメンバー役と保健師役、ロールプレイ観察役を設定し交互に演じる。 2. ロールプレイの体験から小集団（グループ）支援の留意点を学ぶ。
		事前・事後学習	実際に小集団への健康教育のロールプレイを体験することから学んだ小集団への健康教育の特徴と留意点をレポートにして提出する。

授業科目	公衆衛生看護活動論Ⅱ Public Health Nursing Ⅱ	担当教員	小川　克子、近藤　明代、安藤　陽子、 宮崎　由美子、渡辺　千鶴
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	演習	単位数	2 単位
授業目的	コミュニティ（地域共同社会）の健康課題の明確化、健康と福祉水準の向上を図る保健計画の立案、介入方法の選択・評価を展開する基礎的能力を身につけるために、地域住民を対象とする公衆衛生看護過程の理論・方法を用いて地域のコミュニティアセスメントを演習する。また、住民自身の、住民自身による、住民自身のための保健施策実現のために、住民と共働して実施する地域活動のあり方を学習し、人々が所属する集団や地域組織の健康課題の解決、健康レベルの向上を構成員自身が主体的に実現する過程とその支援方法を理解する。		
到達目標	1. 人々の健康を規定する環境としての地域社会を理解し、公衆衛生看護における地域社会の概念規定をする。 2. コミュニティを看護の対象として認識し、コミュニティの健康課題を抽出、地域保健計画や公衆衛生看護計画の立案実施、評価、即ちコミュニティを対象とする看護過程を理解する。 3. ヘルスプロモーションの理念に基づき、コミュニティで生活する人々が自らの健康を維持・増進・回復するための主体的・自主的な言動を支援する理論、展開方法を理解し、支援のための基礎的能力を身につける。 4. 地域組織、地域ケアシステム構築のための支援方法を理解する。 5. 対象別健康課題別公衆衛生看護活動の展開方法を理解する。		
テキスト	1. 松田正己他「標準保健師講座 3　対象別公衆衛生看護活動」（医学書院） 2. 佐伯和子編著「地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド（第 2 版）」（医歯薬出版） 3. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2021/2022」（厚生労働統計協会） 4. 医療情報科学研究所編「公衆衛生がみえる 2020-2021」（メディックメディア）		
参考書	授業ガイダンス又は授業時間に随時紹介する。		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	90%	・定期試験（90 点）：到達目標に関する定期試験（筆記試験）によって、目標の達成度を評価する。 ・コミュニティ看護アセスメント演習において、レポートを①地域で生活する人々の健康と生活実態に必要なデータを特定、収集できる②収集したデータを整理し、分析を行うことができる③地域の概要、地域の基本構造（コア）から地域に住んでいる人々の特性を把握するの観点で評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	10%	
	その他		

履修上の留意事項	・本科目では健康課題を、対象別、課題別に捉えます。学習内容が非常に多いので、毎回の授業内容を整理し、復習を行い、確実に理解してください。 ・グループやコミュニティを対象とする支援方法を学びます。公衆衛生看護活動論Ⅰでの学習する支援方法と関連づけて学習してください。 ・授業中または授業終了後に生じた疑問はその都度担当教員に質問すること。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健師活動の体験を講義に織り交ぜながら、公衆衛生看護活動の実践に必要な知識を理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（近藤）	学習の主題	公衆衛生看護学体系における本科目の位置づけと、地域で生活する人々や居住している地域社会の特性に即した公衆衛生看護活動展開方法の概要
		授業内容	本科目の目的・目標、学習内容と方法、履修上の留意点、学習評価方法について説明する。 1. コミュニティを対象とする公衆衛生看護過程の理論と方法 2. 集団の健康管理・健康レベル向上を目指した公衆衛生看護介入方法の諸相 3. 対象別健康課題別公衆衛生看護活動
		事前・事後学習	事後学習：テキストを参考にして本科目の全体像を捉える。
	2（近藤）	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（1）母子保健活動①
		授業内容	わが国の近現代における母子保健福祉の動向と公衆衛生看護の役割
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	3（近藤）	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（2）母子保健活動②
		授業内容	児の成長発達段階別健康課題に即した母子保健活動
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4 （近藤）	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（3）母子保健活動③
		授業内容	ハイリスク児への母子保健活動
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	5 （宮崎）	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（6）産業保健活動①
		授業内容	産業保健の歴史と現代の産業保健活動体系
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	6 （宮崎）	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（7）産業保健活動②
		授業内容	働く人々の健康問題の諸相
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	7 （宮崎）	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（8）産業保健活動③
		授業内容	産業保健看護職の役割と業務
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	8 （小川）	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（9）成人保健活動①
		授業内容	我が国の近現代における成人保健の動向と公衆衛生看護の役割
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	9 （小川）	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（10）成人保健活動②
		授業内容	成人期の健康課題別保健活動
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	10 （小川）	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（12）高齢者保健活動①
		授業内容	わが国の近現代における高齢者保健の動向と公衆衛生看護の役割
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	11 （小川）	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（13）高齢者保健活動②
		授業内容	高齢者の健康課題別保健活動
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	12 （小川）	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（15）精神保健活動①
		授業内容	わが国の近現代における精神保健の動向と公衆衛生看護の役割
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	13 （小川）	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（16）精神保健活動②
		授業内容	精神障がい者の健康課題別精神保健活動
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	14 （渡辺）	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（4）学校保健活動①
		授業内容	学校保健の歴史と学校保健活動体系
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	15 （渡辺）	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（5）学校保健活動②
		授業内容	学校における健康課題と養護教諭の役割と業務
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	16（安藤）	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（15）感染症保健活動①
		授業内容	わが国の近現代における感染症保健の動向と公衆衛生看護の役割
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	17（安藤）	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（16）感染症保健活動②
		授業内容	地域における感染症保健活動の展開
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	18（安藤）	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（17）難病保健活動①
		授業内容	わが国の近現代における難病保健の動向と公衆衛生看護の役割
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	19（安藤）	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（18）難病保健活動②
		授業内容	地域における難病保健活動の展開
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	20（小川）	学習の主題	集団の健康管理・健康レベル向上を目指した公衆衛生看護介入方法（1）
		授業内容	グループの育成と地域活動への発展における保健師の役割
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	21（小川）	学習の主題	集団の健康管理・健康レベル向上を目指した公衆衛生看護介入方法（2）
		授業内容	住民組織・地区組織の育成と保健師の役割
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	22（小川）	学習の主題	コミュニティを対象とする公衆衛生看護過程
		授業内容	1. 公衆衛生看護過程とは 2. 地域アセスメント（地域診断）の目的 3. 情報収集の方法と分析 4. 公衆衛生看護過程の理論・モデル・ツール
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	23（小川）（安藤）	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（1）（地域の概要アセスメント①）
		授業内容	1. コミュニティ看護アセスメント演習ガイダンス 2. データ収集・地区踏査データの加工・判断 3. データ加工・判断
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	24（小川）（安藤）	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（2）（地域の概要アセスメント②）
		授業内容	アセスメント項目を定めて地域の概要をアセスメントする
		事前・事後学習	事前学習：演習（2）に向けて、各データが示す内容について復習し、各自データ収集を行う
	25（小川）（安藤）	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（3）（地域の概要アセスメント③）
		授業内容	グループメンバーのアセスメントを統合し、地域の概要アセスメントレポートを完成させる
		事前・事後学習	事後学習：地域の概要アセスメントの再確認、修正を行う
	26（小川）（安藤）	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（4）（地域の人々の特性アセスメント①）
		授業内容	アセスメント項目を定めて地域の人々の特性をアセスメントする
		事前・事後学習	事前学習：演習（4）に向けて、各データが示す内容について復習し、各自デー タ収集を行う

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	27 （小川） （安藤）	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（5）（地域の人々の特性アセスメント②）
		授業内容	地域の人々の特性をアセスメントする
		事前・事後学習	事後学習：地域の人々の特性の再確認、修正を行う
	28 （小川） （安藤）	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（6）（地域の人々の特性アセスメント③）
		授業内容	グループメンバーのアセスメントを統合し、アセスメントレポートを作成する
		事前・事後学習	事後学習：地域の概要アセスメント及び地域の人々の特性アセスメントを統合して、アセスメントレポートを作成する
	29 （小川） （安藤）	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（7）（発表とグループディスカッションの準備）
		授業内容	発表とディスカッションの準備を行う。演習を通しての学び、疑問点を整理する
		事前・事後学習	事前学習：発表準備、練習を行う
	30 （小川） （安藤） （近藤）	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（8）（発表とディスカッション）
		授業内容	発表とグループディスカッションを行う

授業科目	公衆衛生看護管理論 Management of Public Health Nursing	担当教員	安藤　陽子、近藤　明代
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位
授業目的	公衆衛生看護の目的は、人々が自らの健康や QOL を維持・改善する能力の向上及び人々を取り巻く環境の改善を支援することにより、集団の健康の保持増進・健康障害の予防と回復を促進し、人々の生命の延伸、社会の安寧に寄与することである。公衆衛生看護活動を効果的、能率的に達成するための公衆衛生看護管理の方法について学ぶ。 また、健康危機管理（災害、感染症等）のあり方についても学習する。		
到達目標	1. 公衆衛生看護管理の意義について理解する。 2. 公衆衛生看護管理の方法ついて理解する。 3. 地域における危機管理について理解する。		
テキスト	標美奈子著者代表「標準保健師講座 1　公衆衛生看護学概論」（医学書院）		
参考書	授業中に適宜、紹介する。		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	到達目標に関する定期試験によって、目標の達成度を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	・毎回のシラバスの「学習の主題」「授業内容」を念頭に置きながら事前にテキスト等を確認する。 ・授業中または授業終了後に生じた疑問はその都度解決できるよう主体的な行動を心がけてください。
実務経験を活かした教育内容	・本科目担当教員が従事した保健師活動を基に、初任期から管理期における公衆衛生看護管理について授業を行います。

学習の主題・授業内容

回数（担当）	項目	内容
1（近藤）	学習の主題	公衆衛生看護管理の概念
	授業内容	1.　本科目の目的、目標、学習内容、履修上の留意点、評価 2. 公衆衛生看護管理の目的と機能
	事前・事後学習	事後学習：授業で使用したプリントや教科書をもとに学習した内容を復習する。
2（近藤）	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相 1 ―地域ケアの質の保証
	授業内容	1. 地域の社会資源の把握 2. 地域の特性を生かした社会資源開発と施策化 3. 保健医療福祉計画の策定
	事前・事後学習	事後学習：授業で使用したプリントや教科書をもとに学習した内容を復習する。
3（近藤）	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相 2 ―組織運営・管理、業務管理
	授業内容	1. 組織の目的、各部署の役割 2. 他部門との連携、情報の共有、協働
	事前・事後学習	事後学習：授業で使用したプリントや教科書をもとに学習した内容を復習する。
4（近藤）	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相 3 ―人材育成
	授業内容	1. 保健師教育制度の変遷 2. 現任教育の目的と方法 3. 人材育成計画
	事前・事後学習	事後学習：授業で使用したプリントや教科書をもとに学習した内容を復習する。
5（安藤）	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相 4―予算管理、人事管理
	授業内容	1. 予算の確保、予算の執行 2. 計画的人事配置（管理）
	事前・事後学習	事後学習：授業で使用したプリントや教科書をもとに学習した内容を復習する。

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	6 （安藤）	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相５―健康危機管理
		授業内容	1. 健康危機管理とリスクマネジメント 2. 保健活動のリスクマネジメント
		事前・事後学習	事後学習：授業で使用したプリントや教科書をもとに学習した内容を復習する。
	7 （安藤）	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相６－災害保健活動
		授業内容	感染症及び自然災害時の危機管理体制と公衆衛生看護業務
		事前・事後学習	事後学習：授業で使用したプリントや教科書をもとに学習した内容を復習する。
	8 （安藤）	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相 7 －情報管理
		授業内容	1. 健康関連情報の収集 2. 情報管理の方法 3. 情報公開 4. 個人情報の保護
		事前・事後学習	事後学習：授業で使用したプリントや教科書をもとに学習した内容を復習する。